

英語科教育法演習 I

担当教員 野口 正樹

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 集中

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「英語科教育法 I・II」の学習内容を踏まえ、個人模擬授業を行います。学習指導案を各自で作成し、Iでは授業成立度（成否）に焦点を当てます。模擬授業後は、全体討論の時間を取り、各授業の評価・検討を行います。以上の実践を通して、中高における英語授業を計画・実施・評価する技能を磨きます。

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

- ① 無断遅刻・欠席・退出は一切認められません。
- ② 模擬授業の2週間前には指導案を作成し、指導教官の承認を得ること。NS への proofread 依頼可。
- ③ 質疑応答及び全体討論に於いて、少なくとも通算5回以上の発言が求められます。
- ④ 指導言の6割以上を英語で行います。

【評価方法】

- ① 授業出席度（原則皆勤） ② 授業貢献度（模擬授業・質疑応答・全体討論） ③ 授業評価 ④ 模擬授業

【テキスト】

学習指導案作成に必要な参考文献・資料・ビデオ等は、適宜紹介します。

【参考文献】

学習指導案作成に必要な参考文献・資料・ビデオ等は、適宜紹介します。

英語科教育法演習 I

担当教員 津波 聡

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 集中

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

英語科教育法で学習した事項を基に、指導案作成と模擬授業を行い英語の運用能力と指導技術の向上を図る

【授業の展開計画】

春休期間中に1日5人程度の模擬授業とディスカッションを5日間行う

【履修上の注意事項】

- (1) 事前に配布される英教法演習I実施要項を熟読しておくこと
- (2) 無断欠席・遅刻・途中退出は認めない

【評価方法】

指導案、模擬授業、ディスカッションを総合的に評価する

【テキスト】

なし

【参考文献】

英教法IIの中で紹介する

英語科教育法演習Ⅱ

担当教員 野口 正樹

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 集中

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「英語科教育法演習Ⅰ」の実践を踏まえて個人模擬授業を行います。学習指導案を各自で作成し、Ⅱでは授業構成度（内実）に焦点を当てます。模擬授業後は、全体討論の時間を取り、各授業の評価・検討を行います。以上の実践を通して、中高における英語授業を計画・実施・評価する技能を磨きます。

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

- ① 無断遅刻・欠席・退出は一切認められません。
- ② 模擬授業の2週間前には指導案を作成し、指導教官の承認を得ること。NS への proofread 依頼可。
- ③ 質疑応答及び全体討論に於いて、少なくとも通算5回以上の発言が求められます。
- ④ 指導言の8割以上を英語で行います。

【評価方法】

- ① 授業出席度（原則皆勤）
- ② 授業貢献度（模擬授業・質疑応答・全体討論）
- ③ 授業評価
- ④ 中学または高校3年分の教科書教材研究
- ⑤ 模擬授業

【テキスト】

学習指導案作成に必要な参考文献・資料・ビデオ等は、適宜紹介します。

【参考文献】

学習指導案作成に必要な参考文献・資料・ビデオ等は、適宜紹介します。

英語科教育法演習Ⅱ

担当教員 津波 聡

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 集中

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- (1) 指導案作成、模擬授業を通して英語による指導技術の更なる向上を図る
- (2) 教育実習に向けての心構えを再確認する

【授業の展開計画】

事前に作成した指導案を基に1人50分の模擬授業とディスカッションを行う

【履修上の注意事項】

- (1) 事前に配布される英教法演習Ⅱ実施要項を熟読しておくこと
- (2) 無断遅刻・欠席・途中退出は一切認められない

【評価方法】

指導案、模擬授業、ディスカッションを総合的に評価する

【テキスト】

なし

【参考文献】

英教法演習Ⅰの中で紹介する

英語科教育法 I

担当教員 野口 正樹

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

前期は、英語教育の在り方に関する理論的な研究成果を概観し、英語教師としての教育観並びに指導観を確立します。そのために、次の2点に注意を払います。まず、英語のコミュニケーション能力を高めることにより、英語を通して英語を教える能力を培います。次に、技能向上のみに偏ることなく、現在の学校教育に求められている「心の教育」に繋がる視点を養成します。講義は受講者による presentation を軸に行い、教授者がそれを支援する形で収束します。

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

①無断遅刻・欠席・退出は一切認められません。②英検 2 級以上またはこれと同等以上の資格取得者であること。③textbooks や指定図書は講義前に全て読んでおきます。④質疑応答・班内討議・全体討論においては少なくとも各 1 回以上の発言が毎時求められます。⑤講義時間以外の班活動や研究発表に準備を必要とします。受講には時間調節が不可欠です。⑥毎時行われる presentation に対応出来る日本語力・英語力と精神力が求められます。⑦講義初日の orientation の理解及び講義内容・形式への同意が受講の最低条件です。

【評価方法】

①授業出席度（原則皆勤） ② 授業貢献度（質疑応答・班内討議・全体討論） ③ 中間試験および期末試験
④ 英語教育に対する姿勢（協調性・社会性を含む） ⑤ 学内外の研究会への参加度（少なくとも 1 回以上）
⑥ 参考文献読書量 ⑦ 6 月研究授業参観（可能な限り多く）

【テキスト】

別途連絡済です。

【参考文献】

別途連絡済です。

英語科教育法 I

担当教員 津波 聡

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- (1) 学校教育全般の現状や課題を学び、求められる資質・技能を身につける
- (2) 英語教育の歴史、現状、理論、及び具体的な指導方法を学ぶ
- (3) 英語で指導できる運用能力の育成を図る

【授業の展開計画】

授業前半は、指定の教科の担当箇所及びそれに関連するトピックについてグループ発表、授業後半は全体討議を行う。グループ発表及び全体討議の内容を中間・期末テストに出題する。

週	授 業 の 内 容
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

【履修上の注意事項】

- (1) 登録時に英検 2 級合格証（又はそれに相当する TOEIC・TOEFL のスコア）の提出が必要
- (2) 事前に指定された教科書（章）を熟読する
- (3) 無断欠席・遅刻は認められない
- (4) 授業外での課題、グループ活動が要求される

【評価方法】

グループ発表、ディスカッション、定期テスト（2回）、ブックレポート、学外研究会（セミナー、講演会、ワークショップ等）への参加を総合的に評価する

【テキスト】

授業の中で連絡する

【参考文献】

授業の中で紹介する

英語科教育法Ⅱ

担当教員 野口 正樹

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

前期履修済みの「英語科教育法Ⅰ」で学んだ教育観及び指導観を踏まえ、後期は実際の教室での指導に役立つ知識や技能の養成を目指します。そこで、group による mini-lesson を試みます。これを通して、教材分析力・教材作成力・教案構成力を培います。また、mini-lesson を核に展開しながら、前期で cover していない項目や更に深く掘り下げる内容を取り上げ、理論と実践の橋渡しを試みます。

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

- ① 無断遅刻・欠席・退出は一切認められません。
- ② テキストや指定課題は講義前に全て読んでおきます。
- ③ mini-lesson は各 group で用意周到に対応願います。
- ④ 英語による質疑応答には少なくとも各 1 回以上の発言が求められます。
- ⑤ 講義時間以外の班活動や研究発表に準備を必要とします。受講には時間調節が不可欠です。

【評価方法】

- ① 授業出席度（原則皆勤）
- ② 授業貢献度（mini-lesson / 質疑応答）
- ③ 課題テストおよび中間・期末試験
- ④ 英語教育に対する姿勢（協調性・社会性を含む）
- ⑤ 学内外の研究会への参加度（少なくとも 2 回以上）
- ⑥ 参考文献読書量
- ⑦ 9 月研究授業を 3 度以上参観しておくこと。

【テキスト】

別途連絡済です。

【参考文献】

別途連絡済みです。

英語科教育法Ⅱ

担当教員 津波 聡

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- (1) 英語教育の理論及び指導法について更に理解を深める
- (2) 原書講読、英語での発表、ディスカッションを通して英語力全般の向上を図る
- (3) 英語で授業ができる技能及び態度を身につける

【授業の展開計画】

コース前半はワークショップ、ディスカッション、後半は指導案作成及び模擬授業が中心になる

週	授 業 の 内 容
1	Orientation
2	Workshop (Warm-up Activity)
3	Workshop (Vocabulary)
4	Workshop (Grammar 1)
5	Workshop (Grammar 2)
6	Workshop (Listening 1)
7	Workshop (Listening 2)
8	Workshop (Reading 1)
9	Workshop (Reading 2)
10	Quiz
11	Group Demonstration 1
12	Group Demonstration 2
13	Group Demonstration 3
14	Group Demonstration 4
15	Group Demonstration 5
16	Group Demonstration 6

【履修上の注意事項】

- (1) 事前に指定されたテキストを熟読し講義に参加する
- (2) 無断欠席、遅刻は認められない
- (3) 期限を過ぎた課題の提出は認められない
- (4) 授業外の課題、グループワークが要求される

【評価方法】

授業態度（出席率、積極性）、グループ発表、クイズ、模擬授業、提出物（指導案、模擬授業評価用紙、ブックレポート）を総合的に評価する

【テキスト】

授業の中で連絡する

【参考文献】

授業の中で紹介する

学校カウンセリング

担当教員 片本 恵利

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本科目では、教育心理学の基礎、進路指導・生活指導のより実践的な知識を踏まえ、臨床心理学の基礎知識を確認しながら、グループワーク、ロールプレイ等を交え学校現場でのカウンセリング的アプローチについて実践的に学んでいく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・登録調整
2	学校カウンセリングとは
3	発達理論 ～フロイトの理論を中心に
4	臨床心理学の基礎知識① こころの病
5	臨床心理学の基礎知識② 無意識についての理論～フロイトとユング
6	カウンセリングの実際① カウンセリングの注意点
7	心理テストの実施と解釈の注意点 その1 ～描画テストの例
8	心理テストの実施と解釈の注意点 その2 ～学校における心理テスト実施の注意点
9	カウンセリングの注意点④ カウンセリングと教師の役割 ～ロジャーズの理論
10	問題行動の理解① 不登校への対応（思春期のカウンセリングと心理療法の各種技法）
11	問題行動の理解② 非行への対応（過ちを犯した生徒に反省を促す）
12	学校現場での緊急事態への対応の実際（ワークショップ）
13	保護者・地域・専門機関との連携
14	クレームへの対応
15	まとめ・振り返り
16	

【履修上の注意事項】

受講環境を考慮して他のクラスへ移動してもらうこともある。

【評価方法】

課題レポート、筆記試験、講義への参加態度などから総合的に評価する。なお、教職を目指すための「読む」「書く」「話す」を重視する。

【テキスト】

菅 佐和子他編 「臨床心理学の世界」 有斐閣

【参考文献】

桑原知子 「教室で生かすカウンセリングマインド」 日本評論社
 氏原寛 「実践から知る学校カウンセラー-教師カウンセラーのために-」 培風館

学校カウンセリング

担当教員 大嶺 和歌子

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

教育課程・教育方法

担当教員 三村 和則

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）並びに教育課程の意義及び編成の方法に係る科目として設けられた科目である。本講義では学校教育の中核を占める授業を主たる対象にしながら、授業のあり方と授業づくりの方法及び技術、ならびに授業の背景をなし授業をひとつの主要な場面として具体化する教育課程について論じる。

【授業の展開計画】

授業を「教えること(教授)」と「学ぶこと(学習)」の統一された過程として捉え、そのような授業を成立させるための指導力量を授業以前の「指導案づくり」の力量と授業の中での「授業展開のタクト」の力量とに区別し、それらの力量形成と上達のための方法論を解説していく。その中で「指導案づくり」と「授業展開のタクト」と関連させながら、情報機器や教材の活用について触れる。また、教科・領域の教育課程について、その意義と歴史及び編成方法についても内在化して論じる。

週	授 業 の 内 容
1	授業びらき
2	授業とは何か1 教授と学習の統一としての授業
3	授業とは何か2 教授理論と授業観の史的変遷
4	授業とは何か3 ドラマとしての授業の成立
5	授業とは何か4 授業のビデオ視聴
6	授業とは何か5 授業のビデオ批評・分析1
7	指導案づくり1 指導案に盛り込むべき事項とその順序
8	指導案づくり2 授業観の変遷と本時の展開計画の枠組みの発展
9	教科内容の確定と教材研究1 教科内容と教材の関係
10	教科内容の確定と教材研究2 教科の成立条件と教育課程
11	教科内容の確定と教材研究3 教材研究(教材づくり・教材解釈)
12	指導言の構想と発問づくり1 発問とは何か
13	指導言の構想と発問づくり2 その他の指導言
14	子どもの応答予想と切り返しの構想
15	授業実践と授業展開のタクト/教育工学的な方法と教育機器の活用
16	試験

【履修上の注意事項】

抽選となった場合、4年次から優先して登録を受け付ける。

教科教育法の履修内容との関連を意識することで、相互の科目の理解が促進されるであろう。

【評価方法】

小レポートを3回程度書いてもらい、その3分の2以上の提出をもって最終日の試験の受験資格とする。

評価は最終日の試験によって行い、小レポートの提出状況と内容により±3点を加点する。

試験が論述問題の場合、各設問に関わる講義内容（専門用語や重要事項）の出現率に対応して（100%＝満点）配点する。

【テキスト】

恒吉宏典他編『授業研究 重要用語300の基礎知識』明治図書、1999年。

【参考文献】

1. 三村和則著『沖縄・学力向上のための提言』ボーダーインク、2010年。 2. 岩垣攝他編『吉本均著作選集（全5巻）』明治図書、2006年。 3. 吉本均編著『新 教授学のすすめ（全5巻）』明治図書、1989年。

教育心理学

担当教員 前堂 志乃

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

この講義では、生徒を理解することと生徒と関わることに役立つような教育心理学的知識の習得を目的とする。教育とは「教え」「育てる」ことであり、それは、生徒との相互作用にもとづき、教師が生徒自らが「育つ」ことを支えることでもある。そして、生徒との相互作用の中で教師も「育つ」。このような観点に立ちながら、前半は、教授活動やその他の教育活動を行う際に必要な生徒のこころの発達や機能の面について理解を進める。また、発達が気になるこども達（LD、ADHD、知的障害など）の発達の特徴や対応の方法についても理解を深める。後半は、学習、動機づけの過程、教育評価のあり方などについて理解を深める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス・教育心理学とは
2	子供の発達と教育（乳幼児—児童）
3	子供の発達と教育（思春期）①
4	子供の発達と教育（思春期）②
5	子供の発達と教育（青年期）
6	発達の気になる生徒の発達の理解と指導（LD・ADHDなど）
7	学習の心理（学習の仕組み）①
8	学習の心理（学習の仕組み）②
9	学習の心理と動機づけ
10	さまざまな学習指導法
11	教育評価と授業計画
12	不適応の理解と指導（不登校・いじめ）
13	不適応の理解と指導（心理療法）
14	子ども理解と教師の心理（子ども理解）
15	子ども理解と教師の心理（教師としての成長）・まとめ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

「教職研究Ⅰ」の単位を履修済みでなければ受講できない。
受講環境を考慮して、他のクラスに移動してもらうことがある。

【評価方法】

出席：毎時キーワード調べとクイズへの回答を提出してもらい出席点とする
期末課題：複数のテーマについてのレポート課題を課す
期末試験：論述形式で行う（予定）
出席、期末課題、期末試験を総合して評価する予定。

【テキスト】

初回の講義時に紹介する予定

【参考文献】

講義時に適宜紹介する

教育心理学

担当教員 片本 恵利

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本科目は、教職科目を履修するに当たって必要な心理学的知識と理論を学習する入門科目である。発達・学習・教育評価・障害と問題行動の理解を柱として、基本的な事項を学ぶ予定である。また、教職課程を本格的に履修するにあたって教職課程履修の準備ができていないかを見極める「関門科目」でもある。教壇に立つことを念頭に置いた厳しい基準で成績評価を行う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・登録調整
2	なぜ教育心理学を学ぶのか 生徒を心理学的立場から理解することの意義・学問の世界の常識
3	発達① 幼児・児童の発達とピアジェ理論
4	発達② 思春期・青年期Ⅰ 第二次性徴と性教育
5	発達③ 思春期・青年期Ⅱ 自己意識と第2反抗期
6	発達④ 成人期 中年期危機と老年期 ～保護者との連携のために
7	学習・教育① 学習理論（行動主義の学習理論）
8	学習・教育② 社会的存在としての人間の学習
9	教育評価① 教育評価（近代科学・統計学の考え方の基礎）
10	教育評価② テストと成績評価の注意点
11	教育評価③ 知能・知能テスト
12	障害と問題行動の理解① 発達障害・知的障害と青年期の課題
13	障害と問題行動の理解② 軽度発達障害 LD・ADHD・広汎性発達障害
14	教師集団の連携
15	まとめ・振り返り
16	

【履修上の注意事項】

1999年度以降入学生は、「教職研究Ⅰ」の単位を修得済みでないと受講できない。
受講環境を考慮して、他のクラスへ移動してもらうこともある。

【評価方法】

課題レポート、筆記試験、授業への参加態度などから総合的に評価する。教職を目指すに当たって必要な「読む・書く・話す」力を身につけていることを単位取得の条件とするため、予習・復習の課題レポートを重視する。

【テキスト】

心理科学研究会「中学・高校教師になるための教育心理学」有斐閣

【参考文献】

北村邦夫+JUNIE編集部「ティーンズ・ボディブック改訂版」扶桑社
金森俊朗「希望の教室」角川書店

教育心理学

担当教員 東畑 開人

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

教師が実践場面で必要とする心理学についての授業。
心理学の知識ではなく、心理学することという、
実際の心理学を用い方について授業を行う。
講師の学校臨床などでの経験を中心に、
学生が主体的に考えることができるようになることを目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション—臨床心理学と自己紹介
2	教師が心理学をするとき—「学校でいかに生きるか」のために
3	発達① 出生から小学生まで—「赤ちゃんと子供のころ」について考える
4	発達② 思春期と青年期—「性」について考える
5	発達③ 思春期と青年期—「自分」について考える
6	発達④ 大人から老人へ—「人生」について考える
7	学習と教育—「学力」と「社会性」について考える
8	教育評価①—「統計」について考える
9	教育評価②—「成績」について考える
10	障害と問題行動の理解①—「非行」と「不登校」について考える
11	障害と問題行動の理解②—「発達障害」について考える
12	学校文化をいかに生きるか—「文化祭」や「補欠」について考える
13	心理療法とは何か—実際に心理学してみる
14	スクールカウンセリング—「学校の影の世界」について考える
15	振り返り
16	テスト

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席と期末試験

【テキスト】

【参考文献】

教育実習指導

担当教員 野見 収・他

対象学年 4年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 集中

授業形態 一般講義

単位数 1

【授業のねらい】

「教育実習A」「教育実習B」（現場実習）の直前の事前指導と中間指導ならびに事後指導のための科目である。昨年9月の「教育実習校選定方法説明会」の趣旨により行うので、その際の説明資料を再度熟読しておくことが必要である。

【授業の展開計画】

（日時は予定。変更の場合随時提示にて連絡する。）

- 1：5月1日（日）10：00—17：00 第1回教育実習オリエンテーション
- 2：5月13日（金）13：00—17：00 第2回教育実習オリエンテーション
- 3：6月11日（土）17：00—19：00 6月教育実習生中間懇談会
- 4：6月24日（金）16：00—18：00 6月教育実習生教科別反省会
- 5：7月1日（金）15：00—16：30 第3回教育実習オリエンテーション〈9月教育実習生対象(教科別)〉
- 6：9月17日（土）17：00—19：00 9月教育実習生中間懇談会
- 7：10月7日（金）16：00—18：00 9月教育実習生教科別反省会

【履修上の注意事項】

- (1) 受講受付は教育実習本登録（4月8日）の際に行う。
- (2) 中間懇談会の日程については、一部の学生は実習期間の変更に応じて移動することがある。また、離島の場合は現地で適宜行う。県外の場合は個別指導を行う。
- (3) 場所、詳細な日時、服装などについて、随時掲示されるので、その指示に従うこと。

【評価方法】

- (1) 「教育実習指導」は昨年9月の「教育実習校選定方法説明会」の趣旨に基づいて行うので、遅刻・欠席・服装・身だしなみ・マナー等の点で教育実習生として不適格と見なされた場合は、教育実習に行くことができない。その場合、本科目の単位も修得できない。
- (2) 教育実習を修了し、事後の教科別反省会に出席することを最低条件としながら全体を通じて総合的に成績評価がなされる。

【テキスト】

使用しない。適宜資料を配付する。

【参考文献】

- (1) 教育実習校選定方法説明会資料
- (2) 沖縄国際大学『教育実習の手引き』

教育の思想と原則

担当教員 野見 収

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義は、教員免許取得に際して単位の修得が必要とされる「教職に関する科目」のうち、とくに「教育の基礎理論に関する科目」に該当するものである。おもに歴史的な観点から、近代公教育理念・原則の意義とその実現をめぐる問題について取り扱う。近代において生み出された公教育の理念・原則が、資本主義の展開のもとでいかなる運命を辿っていったのかを歴史的に整理することを通じ、現代日本の学校教育の課題を確認し、教職を志す者が今後考えていくべき課題を模索する。

【授業の展開計画】

- 1 イントロダクション
- 2 近代以前の教育思想 (1) ー諸外国
- 3 近代以前の教育思想 (2) ー日本
- 4 近代教育の成り立ちと変遷 (1) ー市民社会の理念と公教育
- 5 近代教育の成り立ちと変遷 (2) ー市民社会の現実と公教育
- 6 近代教育の成り立ちと変遷 (3) ー市民社会の構造転換と公教育
- 7 近代教育の成り立ちと変遷 (4) ー帝国主義下における公教育
- 8 近代教育の成り立ちと変遷 (5) ー戦後教育改革と公教育
- 9 近代教育の成り立ちと変遷 (6) ー経済成長と公教育
- 10 現代日本の教育における課題 (1) ー教育法規と教育行政
- 11 現代日本の教育における課題 (2) ー再生産
- 12 現代日本の教育における課題 (3) ー新自由主義
- 13 今日における教育制度改革の動向 (1)
- 14 今日における教育制度改革の動向 (2)
- 15 今日における教育制度改革の動向 (2)
- 16 定期試験

【履修上の注意事項】

「教職研究 I」を履修していなければ、受講できない。遅刻、私語、無断欠席は認めない。毎回、授業終盤に小レポートを課す。

なお、初回の授業においては、履修上の注意・評価方法についてより具体的な説明をおこなうので、受講希望者は必ず出席すること。

【評価方法】

受講態度、小レポートの提出状況およびその内容、期末試験の結果によって総合的に評価する。なお、三分の二以上の出席がなければ、期末試験の受験は認めない。

【テキスト】

特定のテキストは使用しない。レジュメを配布する。

【参考文献】

授業中に紹介する。

教育の思想と原則

担当教員 福島 賢二

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義は、「教職に関する科目」のうち、「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」を理解するために開講されたものである。本講義ではまず、教育における「価値の強制」、「不当な支配」、「不平等」の実態を分析することを通じて近代教育の理念がゆがめられている現実を確認していく。次いで、ゆがめられた教育の現実を矯正するうえで近代法や近代教育の理念が、未だ有用であることを確認していく。教育の現実と規範とを架橋させながら、あるべき教育像を自ら構想していくことができるようになることを目標とする。

【授業の展開計画】

- 1 ガイダンス、人間にとって教育が必要な理由
- 2 教育の概念と機能
- 3 近代教育の理念－権利としての教育
- 4 教育における「価値の強制」(1)－「日の丸・君が代」問題
- 5 教育における「価値の強制」(2)－「日の丸・君が代」問題
- 6 近代法の理念－憲法における「思想・良心の自由」の意義
- 7 教育における「不当な支配」(1)－「こころとからだの学習」裁判
- 8 教育における「不当な支配」(2)－「こころとからだの学習」裁判
- 9 近代法の理念－教育基本法における「教育行政」規定の意義
- 10 教育における「不平等」(1)－貧困の再生産
- 11 教育における「不平等」(2)－貧困の再生産
- 12 近代法の理念－憲法・教育基本法における「教育の機会均等（教育の平等）」の意義
- 13 近代教育の理念(1)－子どもの発達と子どもの権利①
- 14 近代教育の理念(2)－子どもの発達と子どもの権利②
- 15 近代教育の理念(3)－子どもの発達と子どもの権利③
- 16 期末試験

【履修上の注意事項】

- (1) 指定テキスト(2冊)の購入が義務づけられる。テキストの内容を踏まえて授業を展開していく。
 - (2) テキストは事前に読んでくること。テキストを読んでいることを前提に授業を進める。
 - (3) 毎時間、出席をとる。レポート課題もかなりの頻度で課せられる。
 - (4) 本授業は週2クラス開講されるが受講者が均等になるように抽選を行う(抽選漏れの相談は応じない)。
- ※ 以上の事柄をすべて遵守できるもののみ履修登録をすること。

【評価方法】

評価は、受講態度(出席状況)、レポートの提出状況とその内容、期末試験の内容、によって総合的に行う。

【テキスト】

- ①児玉勇二『性教育裁判』岩波ブックレット、2009年、480円＋税。②澤藤統一郎『「日の丸・君が代」を強制してはならない』岩波ブックレット、2007年、480円＋税。

【参考文献】

田嶋一ほか著『新版 やさしい教育原理』有斐閣、2007。西原博史『学校が愛国心を教えるとき』日本評論社、2003年。藤本典裕『学校から見える子どもの貧困』大月書店、2009年。青砥恭『ドキュメント高校中退』ちくま新書、2009年。堀尾輝久『現代教育の思想と構造』岩波書店、1971年。

教育の制度

担当教員 福島 賢二

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義は「教職に関する科目」のうち「教育に関する社会的、制度的、経営的事項」を理解するために開講されたものである。本講義では、教育の制度を、以下2つの視点から分析していく。ひとつは国家（教育行政）による教育の統制であり、いまひとつは社会的規定による教育の急進的な変革である。この分析を通じて、教育制度の改革が、国家及び社会の入れ子構造のなかで行われていることを理解していく。

【授業の展開計画】

- 1 ガイダンス、「教育制度」とは何か
- 2 戦前の教育と戦後の教育
- 3 教育基本法の意義と制定過程
- 4 教育行政制度（1）－中央教育行政
- 5 教育行政制度（2）－地方教育行政
- 6 教育課程に関する制度（1）－学習指導要領
- 7 教育課程に関する制度（2）－教科書検定制度
- 8 教育課程に関する制度（3）－教科書採択制度
- 9 教育課程に関する制度（4）－教科書裁判
- 10 教育権の所在－「国家の教育権」論VS「国民の教育権」論
- 11 社会的規定としての教育制度－新自由主義教育改革
- 12 近年の教育制度改革（1）－学校選択制度
- 13 近年の教育制度改革（2）－学校ガバナンス
- 14 就学援助制度
- 15 子どもの学力保障と学校改革
- 16 期末試験

【履修上の注意事項】

- (1) 授業は週3クラス開講されるが、受講者が均等になるように抽選を行う（抽選漏れの相談は応じない）。
- (2) 授業の展開計画や進度は、受講者の理解能力や興味関心に応じて変わることがある。
- (3) 毎時間、出席をとる。レポート課題もかなりの頻度で課せられる。
- (4) ほぼ毎時間、大量の資料が配布される。各自でポケット式ファイル（A4版）を用意し、日々資料の整理に努めること。資料は、毎時間持参すること。

【評価方法】

評価は、①受講態度、②レポート課題の提出状況とその内容、③期末試験の内容、によって総合的に行う。

【テキスト】

今のところテキストを使用する予定はない。授業の展開によってはテキスト購入の指示を行うこともある。

【参考文献】

小川正人『現代の教育改革と教育行政』放送大学教材、2010年。篠原清昭ほか著『現代の教育法制』学文社、2010年。勝野正章・藤本典裕編『教育行政学』学文社、2008年。佐貫浩ほか編『新自由主義教育改革』大月書店、2008年。坪井由実ほか編『資料で読む 教育と教育行政』2002年、勁草書房。

教職研究 I

担当教員 三村 和則

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 1

【授業のねらい】

教育職員免許法（教免法）上の「教職の意義等に関する科目」（2単位）として位置づけられている科目の1単位分を成す科目である。教免法では「教職の意義等に関する科目」の内容を①教職の意義及び教員の役割②進路選択に資する各種の機会の提供等③教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。）と定めている。本学では1年次を対象に①②を中心とした教職研究 I（1単位）と、3年次を対象に①③を中心とした教職研究 II（1単位）に分けて開設している。

【授業の展開計画】

本講義では教職課程カリキュラムと教員養成の仕組みについて学ぶとともに現代社会における教職の意義と教員の役割について研究する。また、教職適性検査などを通して、教職をめざすことについて、自らを省みる機会を提供する。

- 1：ガイダンス/先発・後発クラス分け/課題レポートの提示（「なぜ、教師をめざすのか」）
- 2：教職課程の履修方法について1
- 3：教職課程の履修方法について2
- 4：教員養成カリキュラム改編の背景と今日の教師に求められる資質と能力
- 5：職業適性検査（VPI職業興味検査と自己判定）
- 6：教員養成の歴史（戦前の閉鎖制養成と戦後の開放制養成）/世界の教員養成
- 7：よい教師とは何か1（ライフプラン、公務員と教員の関係）
- 8：よい教師とは何か2（自主研修、メッセージ）
/まとめ/課題レポートの提示（「再び、なぜ、教師をめざすのか」）（予備：小説・ドラマの中の教師）

【履修上の注意事項】

①教員免許状取得希望者は必ずこの科目から受講すること。②1, 2週目には必ず『履修ガイド』を持参すること。③7(8)週目に終了するので、先発と後発のクラスに分ける。前期先発クラスは4～6月、後発クラスは6～7月、後期先発クラスは10～11月、後発クラスは12～1月がおよその受講期間である。受講者数の関係で前期6時間目と後期クラスは先発クラスのみで終了予定。④抽選の場合でも、他の教員クラスで必ず受講できるようにするので、必ず相談に来ること。

【評価方法】

5件提出物がある。最後の提出物（「再び、なぜ教師をめざすのか」）で、まず評定を決める。決め方は、7回の講義内容の要点の出現が6回以上は優、4回と5回は良、3回は可、2回以下は不可とする。その後、この評定を他の4件の提出物の件数とクロスさせる。4件の場合1ランク上、3件の場合そのまま、2件の場合1ランク下の評定とする。但し、1件以下の場合は不可の評定とする。

【テキスト】

使用しない。適宜資料を配布する。

【参考文献】

1. 赤星晋作他編著『学校教師の探求』学文社、2001年。 2. 教養審第1次答申『新たな時代に向けた教員養成の改善方策について』1997年。 3. 中教審答申『今後の教員養成・免許制度の在り方について』2006年。

教職研究 I

担当教員 野見 収

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 1

【授業のねらい】

教育職員免許法（教免法）上の「教職の意義等に関する科目」（2単位）として位置づけられている科目の1単位分を成す科目である。教免法では「教職の意義等に関する科目」の内容を①教職の意義及び教員の役割②進路選択に資する各種の機会の提供等③教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。）と定めている。本学では1年次を対象に①②を中心とした教職研究Ⅰ（1単位）と、3年次を対象に①③を中心とした教職研究Ⅱ（1単位）に分けて開設している。

【授業の展開計画】

本講義では教職課程カリキュラムと教員養成の仕組みについて学ぶとともに現代社会における教職の意義と教員の役割について研究する。また、適性検査やドラマにおける教師像などを通して、教職をめざすことについて、自らを省みる機会を提供する。

なお、2013年度開講予定の「教職実践演習」（4年次後期受講）の準備として、「教職課程履修簿」を作成・活用する予定である。

- 1：ガイダンス（グループワーク）/先発・後発クラス分け
- 2：教職課程の仕組みの理解
- 3：今日の教師に求められる資質と能力
- 4：「私が教師になること」の分析～職業適性検査（V P I 職業興味検査と自己判定）
- 5：教員養成の歴史（戦前と戦後の養成）/世界の教員養成
- 6：教師になる・教師として生きる～ドラマの中の教師像
- 7：まとめと振り返り（グループワーク）・公務員と教員との関係

【履修上の注意事項】

1) 教員免許状を取得しようとする者は、必ずこの科目から受講すること。(2) 1、2週目には必ず『履修ガイド』を持ってくること。(3) 7週目に終了するので、先発クラスと後発クラスに分けて受講する。従って前期の先発クラスは4月～6月、後発クラスは4月前半および6月～7月がおよその受講期間である。

【評価方法】

出席・参加状況とレポート等の提出物によって評価する。

【テキスト】

使用しない。適宜資料を配布する。

【参考文献】

1. 赤星晋作他編著『学校教師の探求』学文社、2001年。
2. 教育職員養成審議会第1次答申『新たな時代に向けた教員養成の改善方策について』1997年。

教職研究Ⅱ

担当教員 福島 賢二

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 1

【授業のねらい】

教育職員免許法上の「教職の意義等に関する科目」（2単位）として位置づけられている科目の1単位分の科目である。すでに履修済みの「教職研究Ⅰ」（1単位）の発展科目である本講義（教職研究Ⅱ）では、①教員のサービス内容（研修、サービス及び身分保障等を含む）、②教職の専門性、③教職の困難と背景要因、④教員評価、などを学習し、「教職の意義及び役割」の基本的知識を獲得していくことを目標とする。

【授業の展開計画】

0 ガイダンス／前期・後期クラス分け

（※ 以下、前期クラスのスケジュール）

- 1 教職の現状
- 2 教員の身分とサービス
- 3 教員の地位と役割
- 4 教職の専門性①
- 5 教職の専門性②
- 6 教師の困難と教職を支えるもの
- 7 評価社会に生きる教師

（※ 以下、「後半クラス」のスケジュール）

- 1 教職の現状
- 2 教員の身分とサービス
- 3 教員の地位と役割
- 4 教職の専門性①
- 5 教職の専門性②
- 6 教師の困難と教職を支えるもの
- 7 評価社会に生きる教師

（※ 以下、「前半クラス」「後半クラス」両方）

- 8 まとめ（試験）→必要に応じて行う

【履修上の注意事項】

- (1) 前半クラスと後半クラスに分けて受講する。前半クラスは4月～6月、後半クラスは6月～7月がおおよその受講期間である。
- (2) 学生の興味・関心等によって講義スケジュールは変更する可能性があることを留意しておくこと。
- (3) 教育実習の事前科目となるため遅刻・欠席、レポートの未提出は認めない。
- (4) 前期と後期の「教職研究Ⅱ」の受講者数を均等にするため、抽選を行う（抽選漏れの相談には応じない）。

【評価方法】

評価は、受講態度（出席状況）、コメント用紙・レポート課題の提出状況とその内容、期末試験（又は最終レポート）の内容によって総合的に行う。

【テキスト】

テキストは使用しない。毎時間、レジュメを配布する。

【参考文献】

秋田喜代美・佐藤学『新しい時代の教職入門』有斐閣、2006年。田中孝彦ほか編『現実と向きあう教育学』大月書店、2010年。久富善之・佐藤博編著『新採教師はなぜ追いつめられたのか』高文研、2010年など。

教職研究Ⅱ

担当教員 福島 賢二

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 1

【授業のねらい】

教育職員免許法上の「教職の意義等に関する科目」（2単位）として位置づけられている科目の1単位分の科目である。すでに履修済みの「教職研究Ⅰ」（1単位）の発展科目である本講義（教職研究Ⅱ）では、①教員の服務内容（研修、服務及び身分保障等を含む）、②教職の専門性、③教職の困難と背景要因、④教員評価、などを学習し、「教職の意義及び役割」の基本的知識を獲得していくことを目標とする。

【授業の展開計画】

0 ガイダンス／前期・後期クラス分け

（※ 以下、前期クラスのスケジュール）

- 1 教職の現状
- 2 教員の身分と服務
- 3 教員の地位と役割
- 4 教職の専門性①
- 5 教職の専門性②
- 6 教師の困難と教職を支えるもの
- 7 評価社会に生きる教師

（※ 以下、「後半クラス」のスケジュール）

- 1 教職の現状
- 2 教員の身分と服務
- 3 教員の地位と役割
- 4 教職の専門性①
- 5 教職の専門性②
- 6 教師の困難と教職を支えるもの
- 7 評価社会に生きる教師

（※ 以下、「前半クラス」「後半クラス」両方）

- 8 まとめ（試験）→必要に応じて行う

【履修上の注意事項】

- (1) 前半クラスと後半クラスに分けて受講する。前半クラスは10月～11月、後半クラスは12月～1月がおよその受講期間である。
- (2) 学生の興味・関心に応じて講義スケジュールは変更する可能性があることを留意しておくこと。
- (3) 教育実習の事前科目となるため遅刻・欠席、レポートの未提出は認めない。
- (4) 前期と後期の「教職研究Ⅱ」の受講者数を均等にするため、抽選を行う（抽選漏れの相談には応じない）。

【評価方法】

評価は、受講態度（出席状況）、コメント用紙・レポート課題の提出状況とその内容、期末試験（又は最終レポート）の内容によって総合的に行う。

【テキスト】

テキストは使用しない。毎時間、レジュメを配布する。

【参考文献】

秋田喜代美・佐藤学『新しい時代の教職入門』有斐閣、2006年。田中孝彦ほか編『現実と向きあう教育学』大月書店、2010年。久富善之・佐藤博編著『新採教師はなぜ追いつめられたのか』高文研、2010年など。

教職総合演習

担当教員 平良 宗潤

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期・後期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

戦後沖縄の平和教育は沖縄戦と基地をはなれてはあり得ない。沖縄戦とはどんな戦争だったのか、国体護持のための捨て石作戦とは何だったのか、住民被災の状況と戦闘経過からその実相をアジア太平洋戦争の中で考えてみよう。人々はどのようにして戦争を阻止できなかったのか。人々はこの戦争から何を学んだのか。

「平和の最大の武器は学習」である。戦跡と基地は何を語っているか。私たちの父祖の時代を振り返り、沖縄戦の教訓を生かし、私たちが平和のためにできることは何か、を考えたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	沖縄戦100問を解く
2	沖縄戦100問の回答と解説
3	太平洋戦争中の沖縄戦…台湾出兵から沖縄戦まで
4	「アイスバーグ（沖縄攻略）作戦」…その全容
5	沖縄戦の戦闘経過…「二歩後退、一步前進」
6	「鉄の暴風」…米軍上陸後の主な戦闘
7	日本軍の特攻作戦…戦艦大和の出撃、天一号作戦
8	首里撤退と南部洞窟陣地の戦い
9	住民被災の状況1… 沖縄戦の戦没者、そのからくり
10	住民被災の状況2 … 防衛隊と学徒隊
11	住民被災の状況3… 県外疎開と山原避難
12	収容所と慰霊塔… 灰燼の中から
13	天皇裕仁と沖縄戦… 「天皇独白録」から
14	フィールドワーク… 「平和公園」を中心に
15	フィールドワーク
16	

【履修上の注意事項】

フィールドワークは日曜日に実施するが必修とする。これに参加しなければ単位は認定しない。抽選となった場合は、学科、学年を問わず抽選する。

【評価方法】

「フィールドワーク」の実習記録を中心に、自由題の3分スピーチ、毎時提出する「今日の講義から」などを加味して総合的に判断する。

【テキスト】

とくに指定しない。必要な資料を配付する。

【参考文献】

とくに指定しない。必要な資料を配付する。

教職総合演習

担当教員 津多 則光

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期・後期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

人類の歴史の中で「平和問題」を振り返った時、終わり無き戦争の繰り返しは避けがたいものか、という疑念が湧く。それでも戦争の歴史を止めるのは人類自身しかない。とすれば、人類の構成員であるわれわれは、戦争を科学的に把握し、人間的視点から平和を創造しなければならない。そのために、われわれは、真の平和創造を視野に入れつつ、その知識と感性と行動をいかに身につけるか。

【授業の展開計画】

本講義は、以上に述べる観点から「沖縄戦と米軍基地、そして若干の日本の現在と国際関係」に焦点をあて、調査活動や追体験、証言等によって戦争と平和の認識力を高め、教師としての平和教育の方法論を学習する。

【授業の構造】「沖縄戦・米軍基地」を横軸に、総合的学習を縦軸に展開する。

【評価＝課題研究】自ら課題を設定し、その調査・研究として小論文にまとめる。

【授業の内容と計画】

回	主 題	主 な 内 容
1	日本の近代化と戦争	近代化と戦争への道、海外派兵から帝国主義戦争へ
2	沖縄戦の位置づけ	沖縄戦の性格、地理的視点、歴史的視点、人的視点
3	戦争への総動員	国家総動員体制と戦争動員のシステムと実態
4	戦跡と米軍基地（巡検）	戦跡と戦争遺跡と慰霊塔、米軍基地の概要
5	住民の戦争体験（1）	住民の強制疎開、沖縄戦の戦闘状況
6	住民の戦争体験（2）	戦場での住民の避難状況
7	住民の戦争体験（3）	住民と日本軍、住民と米軍、戦争被害
8	住民の戦争体験（4）	沖縄戦の特徴、戦争の反省と慰霊塔
9	戦争責任と沖縄戦学習	戦争責任と反省、戦後補償、次世代への継承
10	米軍占領から復帰まで	占領と軍事基地、米軍支配の実態、基地と安保条約
11	米軍と県民運動(1)	異民族支配への抵抗、島ぐるみ土地闘争
12	米軍と県民運動(2)	復帰運動、自治権拡大の闘い
	米軍基地の現状	基地の過密化、米軍基地と予算
13	戦争と平和の一般化	一般化の視点、戦争と平和の関係図
	国家国民（1）	「自衛権」と「集団自衛権」、憲法改正問題
14	国家国民（2）	戦争のできる国へー有事法制(国民保護法)
15	国際関係	平和への足跡、平和創造と「私」
16	テ ス ト	課題のまとめ

[注]「演習」は配布された資料を事前研究し授業で発表すること。

【履修上の注意事項】

沖縄戦に関する証言や記録などを多く読むこと。

【評価方法】

評価は小論文を主とし、出席(授業態度)、巡検、演習、受講感想を加味する。

【テキスト】

(1) 基本テキスト…「総合的学習の概要」(2) 資料…毎時自作資料を配布
(参考資料) …URL <http://hb4.seikyuu.ne.jp/home/okinawasennokioku/>

【参考文献】

(参考資料) …URL <http://hb4.seikyuu.ne.jp/home/okinawasennokioku/>

教職総合演習

担当教員 上田 真弓

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期・後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

教えることは「伝える」こと。この演習では、ワークショップ型の授業展開を体験しながら、コミュニケーションと表現を中心に、伝える力、表現する力を鍛えていく。また、教師になった時に、講義とは別の方法でテーマを深める授業ができること、必要に応じて授業を組み立てていくことができるようになることをねらいとしている。前半、アイスブレイク、ワークショップ、円の授業、ドラマワークを通して考え、表現すること、グループワークによる共同作業などを体験する。後半はグループで授業を組み立て自分たちで進行する。実際に授業の進行を体験することによって、学んだことをより具体的に自分のものとするができるだろう。

【授業の展開計画】

【授業の展開計画】

- 1 講義ガイダンス、アイスブレイクの実践と効果（1）
- 2 アイスブレイクの実践と効果（2）ウォーミングアップと「聴く」練習
- 3～5 身体表現によるコミュニケーション
- 6～8 サブテキストを読み解く～解釈と表現
- 9～10 ドラマを使った授業を体験する
- 11～15 ドラマを使ったグループ活動（進行役体験）：テーマを決めて表現する
- 16 まとめ

【履修上の注意事項】

ワークショップ（参加型学習）が中心になるので、欠席が多い場合は単位を認定することはできない。授業の一环としてワークショップへの参加、その他の学外での演習がある。それも含めて出席すること。厚生会館での授業が多いので注意（次の時限に授業が入っていない方が望ましい）。動きやすい服装で参加すること。

【評価方法】

授業後に「フィードバックシート（再現可能な授業記録と省察）」を毎回提出のこと。レポートは、進行役体験についてと、授業の最初の「私はこういう人です」と最後の「授業の感想」。主として、出席（40%）およびレポート（60%）で評価する。

【テキスト】

適宜配布

【参考文献】

『学びの即興劇』武田富美子、『ワークショップリーダーへの道』絹川友梨、『呼吸入門』斎藤孝、
『ドラマ教育を探る12章』中山夏織、『インプロ教育—即興演劇は創造性を育てるか?』高尾隆、その他

国語科教育法演習 I

担当教員 仁野平 智明

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「国語科教育法Ⅰ」「国語科教育法Ⅱ」で学んだ、国語科学習指導の理念や教材研究の方法についての理解を深化させ、実際の授業ができるようになることを目標とする。また、授業実践者として常に学ぶ姿勢をもち、自らを省みる客観的な視点をもつことができることも目標とする。

【授業の展開計画】

1. ガイダンス
2. 授業構築の実際（講義）
3. 模擬授業と研究討議(1)
4. 模擬授業と研究討議(2)
5. 模擬授業と研究討議(3)
6. 模擬授業と研究討議(4)
7. 模擬授業と研究討議(5)
8. 模擬授業と研究討議(6)
9. 模擬授業と研究討議(7)
10. 模擬授業と研究討議(8)
11. 模擬授業と研究討議(9)
12. 模擬授業と研究討議(10)
13. 模擬授業と研究討議(11)
14. 模擬授業と研究討議(12)
15. 模擬授業と研究討議(13)
16. 総括

【履修上の注意事項】

- ①「国語科教育法Ⅰ」「国語科教育法Ⅱ」の単位を取得していること。
- ②履修前の所定の期日に行われるテストを受け、合格しなければならない。
- ③無断欠席・遅刻・途中退出は一切認めない。
- ④模擬授業会など授業外の活動への参加が要求される。

【評価方法】

指導案の内容、取り組みの状況、討論への参加状況、提出物、出席状況などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

各自の必要に応じて中学校・高等学校の教科書を購入する。
他は、プリントにして適宜配布する。

【参考文献】

授業内に紹介する。

国語科教育法演習 I

担当教員 田場 裕規

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

教育実習における研究授業を想定した模擬授業をおこなう。前期の国語科教育法等でおこなった教材研究を応用しつつ、各自が担当する教材をもとに模擬授業をおこなう。模擬授業担当者は、指導案（教材観・指導目標・指導計画・授業細案・発問計画・教材の分析等を含む）を作成・配布したうえで模擬授業に臨むこと。

【授業の展開計画】

- | | | | |
|---|-----------------|----|-----------|
| 1 | ガイダンス | 9 | 模擬授業と研究討議 |
| 2 | 国語科授業の改善と工夫（講義） | 10 | 模擬授業と研究討議 |
| 3 | 模擬授業と研究討議 | 11 | 模擬授業と研究討議 |
| 4 | 模擬授業と研究討議 | 12 | 模擬授業と研究討議 |
| 5 | 模擬授業と研究討議 | 13 | 模擬授業と研究討議 |
| 6 | 模擬授業と研究討議 | 14 | 模擬授業と研究討議 |
| 7 | 模擬授業と研究討議 | 15 | 模擬授業と研究討議 |
| 8 | 模擬授業と研究討議 | 16 | 模擬授業と研究討議 |

【履修上の注意事項】

①無断欠席をしないこと。②毎時間、A4一枚の課題を提示するので、次時の授業開始時に提出すること。③毎時間1名指名し、教員が用意した文章の朗読を行う。④授業担当者は、指導案等について事前指導を受けること。⑤模擬授業担当者は、模擬授業終了後翌週までに授業のリフレクションシートを作成し受講者及び教員に配布すること。

【評価方法】

①出席を重視する。②指導案の内容、取り組み状況、討論への参加状況提出物等を総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて紹介する。または、プリント等を適宜配布する（熟読すること）。

【参考文献】

必要に応じて紹介する。または、プリント等を適宜配布する（熟読すること）。

国語科教育法演習Ⅱ

担当教員 仁野平 智明

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

これまで国語科教職関連科目で学んだ教材研究・授業実践をさらに深化させ、より高次の授業ができるようになることを目標とする。また、授業実践者として常に学ぶ姿勢をもち、自らを省みる客観的な視点を持つことができることも目標とする。

【授業の展開計画】

1. ガイダンス
2. 授業構築の実際（講義）
3. 模擬授業と研究討議(1)
4. 模擬授業と研究討議(2)
5. 模擬授業と研究討議(3)
6. 模擬授業と研究討議(4)
7. 模擬授業と研究討議(5)
8. 模擬授業と研究討議(6)
9. 模擬授業と研究討議(7)
10. 模擬授業と研究討議(8)
11. 模擬授業と研究討議(9)
12. 模擬授業と研究討議(10)
13. 模擬授業と研究討議(11)
14. 模擬授業と研究討議(12)
15. 模擬授業と研究討議(13)
16. 総括

【履修上の注意事項】

- ①「国語科教育法Ⅰ」「国語科教育法Ⅱ」「国語科教育法演習Ⅰ」の単位を取得していること。
- ②無断欠席・遅刻・途中退出は一切認めない。
- ③模擬授業会など授業外の活動への参加が要求される。

【評価方法】

指導案の内容、取り組みの状況、討論への参加状況、提出物、出席状況などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

各自の必要に応じて中学校・高等学校の教科書を購入する。
他は、プリントにして適宜配布する。

【参考文献】

授業内に紹介する。

国語科教育法演習Ⅱ

担当教員 田場 裕規

対象学年 4年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

教育実習における研究授業を想定した模擬授業をおこなう。国語科教育法等でおこなった教材研究を応用しつつ、各自が担当する教材をもとに模擬授業をおこなう。模擬授業担当者は、指導案（教材観・指導目標・指導計画・授業細案・発問計画・教材の分析等を含む）を作成・配布したうえで模擬授業に臨むこと。

【授業の展開計画】

- | | |
|-------------------|--------------|
| 1 ガイダンス | 9 模擬授業と研究討議 |
| 2 国語科授業の改善と工夫（講義） | 10 模擬授業と研究討議 |
| 3 模擬授業と研究討議 | 11 模擬授業と研究討議 |
| 4 模擬授業と研究討議 | 12 模擬授業と研究討議 |
| 5 模擬授業と研究討議 | 13 模擬授業と研究討議 |
| 6 模擬授業と研究討議 | 14 模擬授業と研究討議 |
| 7 模擬授業と研究討議 | 15 模擬授業と研究討議 |
| 8 模擬授業と研究討議 | 16 模擬授業と研究討議 |

【履修上の注意事項】

①無断欠席をしないこと。②毎時間、A4一枚の課題を提示するので、次時の授業開始時に提出すること。③毎時間1名指名し、教員が用意した文章の朗読を行う。④授業担当者は、指導案等について事前指導を受けること。⑤模擬授業担当者は、模擬授業終了後翌週までに授業のリフレクションシートを作成し受講者及び教員に配布すること。

【評価方法】

①出席を重視する。②指導案の内容、取り組み状況、討論への参加状況提出物等を総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて紹介する。または、プリント等を適宜配布する（熟読すること）。

【参考文献】

必要に応じて紹介する。または、プリント等を適宜配布する（熟読すること）。

国語科教育法 I

担当教員 仁野平 智明

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

中学校及び高等学校国語科教師を目指す学生のための、入門的な科目である。国語科教育学の諸領域に関する歴史と理論の概要を理解するとともに、実践事例を検討して優れた点に学び、自らの教材研究・授業構想に生かすための基礎を身につけることを目標とする。

【授業の展開計画】

1. ガイダンス

2. 国語科教育法を学ぶにあたって（講義）
3. 国語科の授業構築に向けて（講義）
4. 表現（「書くこと」）教育の研究(1)
5. 表現（「書くこと」）教育の研究(2)
6. 文学教育の研究(1)
7. 文学教育の研究(2)
8. 説明的文章教育の研究(1)
9. 説明的文章教育の研究(2)
10. 読書教育の研究(1)
11. 読書教育の研究(2)
12. 音声言語教育の研究(1)
13. 音声言語教育の研究(2)
14. 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の指導に関する研究(1)
15. 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の指導に関する研究(2)
16. 総括

*第4回～第15回は、指定された課題についての発表、それに対する質疑応答と討論、コメントという形式で行う。

【履修上の注意事項】

- ①中学校及び高等学校国語の教員免許を取得するための必修科目である。
- ②履修前の所定の期日に行われるテストを受け、合格しなければならない。
- ③無断欠席・遅刻・途中退出は一切認めない。
- ④授業外の課題やグループ活動などへの参加が要求される。

【評価方法】

発表の内容、討論への参加状況、提出物、出席状況などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

森田信義・山元隆春・山元悦子・千々岩弘一『新訂国語科教育学の基礎』 溪水社 2010

【参考文献】

- 『中学校学習指導要領解説 国語編』 文部科学省 2008
『高等学校学習指導要領解説 国語編』 文部科学省 2010

国語科教育法Ⅱ

担当教員 仁野平 智明

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

国語の授業における諸教材について、素材としての分析のみならず、教材としての価値、学習者にとっての意味という視点をもって研究を深め、実際の授業を想定した学習指導案の作成ができるようになることを目標とする。

【授業の展開計画】

1. ガイダンス
2. 授業と学習指導案（講義）
3. 教材化の視点（講義）
4. 学習指導案の研究(1)
5. 学習指導案の研究(2)
6. 学習指導案の研究(3)
7. 学習指導案の研究(4)
8. 学習指導案の研究(5)
9. 学習指導案の研究(6)
10. 学習指導案の研究(7)
11. 学習指導案の研究(8)
12. 学習指導案の研究(9)
13. 学習指導案の研究(10)
14. 学習指導案の研究(11)
15. 学習指導案の研究(12)
16. 総括

*第4回～第15回は、指定された課題についての発表、それに対する質疑応答と討論、コメントという形式で行う。

【履修上の注意事項】

- ①「国語科教育法Ⅰ」の単位を取得していること。
- ②無断欠席・遅刻・途中退出は一切認めない。
- ③授業外の課題やグループ活動などへの参加が要求される。

【評価方法】

発表の内容、討論への参加状況、提出物、出席状況などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

各自の必要に応じて中学校・高等学校の教科書を購入する。
他は、プリントにして適宜配布する。

【参考文献】

授業内に紹介する。

国語科教育法Ⅱ

担当教員 津多 則光

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

国語科教育の最も重要で基本的な内容は、言語をどう認識するかによって定まる。現在の日本の社会では言語の乱れが進行しており、日本民族の生命ともいえる日本語が危機に瀕している、とも言われている。言語の危機は即民族文化の危機とも言えるだけに状況は深刻である。

【授業の展開計画】

この講義は、国語（言語＝日本語）の本質に触れながら、何をどうすることが正しい国語（言語＝日本語）科教育に結びつくのか、という視点から国語（言語＝日本語）科教育の実践的方法論に迫る。すなわち、国語（言語＝日本語）科教育の実践的な根本要素を取り出し、それに基づく国語（言語＝日本語）科教育の計画作成（「授業案」）を目指す。

【授業計画】

1	国語科教育の内容 (1) 言語機能と国語科教育	講義
2	国語科教育の内容 (2) 国語科教育の構造	講義
3	国語科教育の内容 (3) 国語科の授業過程	講義
4	授業案の実践的研究 (1) 生徒の実態分析と学習目標の立て方	講義・実習
5	授業案の実践的研究 (2) 教材観－分析と教材化の視点（文学）	講義・実習
6	授業案の実践的研究 (3) 教材観－分析と教材化の視点（説明的文章）	講義・実習
7	授業案の実践的研究 (4) 学習計画と本時の展開（読解・作文・言語）	講義・実習
8	授業案の実践的研究 (5) 作文教育の内容と構造	講義・実習
9	授業案の実践的研究 (6) 文法指導の内容と構造	講義・実習
10	授業案検討会 (1) 文学(小説・詩歌・随筆等)の授業案	実習・演習
11	授業案検討会 (2) 説明的文章の授業案	実習・演習
12	授業案検討会 (3) 作文指導の授業案	実習・演習
13	授業案検討会 (4) 古典指導の授業案	実習・演習
14	授業案検討会 (5) 文法・語句指導の授業案	実習・演習
15	授業案検討会 (6) 「本時の展開」について	実習・演習
16	テスト 最終授業案の作成、その他	
※番外	教材分析特別研修会（別項）	実習

【履修上の注意事項】

- (1) 国語科教科書の読破
- (2) 教育実践書の読書

【評価方法】

- (1) 評価の観点…出席状況、授業態度、共同研究、授業案、国語理論、言語能力等
- (2) 評価の対象（提出物）…最終授業案、受講感想

【テキスト】

(1) 今年度国語科教科書(中学校) …光村図書、教育出版、三省堂、東京書籍 (2) 基本テキスト…「国語科教育の基礎－授業計画編」(自作) (3) 随時配布資料…「教材分析例」「その他」

【参考文献】

社会科・公民科教育法

担当教員 三村 和則

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

高校公民科の指導方法に係る科目である。
わが国の中等社会科教育、特に公民科教育についてその歴史、目的および内容の批判的検討、ならびに教材研究と授業方法の考察を通して、中等社会科教育、特に公民科教育の理論の修得を目標とする。

【授業の展開計画】

まず、高校公民科の教材研究と授業方法について授業実践記録などを通して研究する。次に、わが国の中等社会科と高校公民科の歴史を考察することで、これら教科の性格・目的・内容について理論的に明らかにする。毎時間、指定された課題についての報告とそれに対する質疑応答・全体討論・コメントという形式で進行する。

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス・クラス分け
2	公民科模擬授業のビデオ視聴
3	「現代社会」の授業の実際1
4	「現代社会」の授業の実際2
5	「政治経済」の授業の実際
6	「倫理」の授業の実際
7	わが国の中等社会科の成立と展開1
8	わが国の中等社会科の成立と展開2
9	高校社会科の「解体」と教員養成
10	学習指導要領の特徴と公民科
11	社会科授業づくりの工夫1
12	社会科授業づくりの工夫2
13	指導案づくりの方法
14	公民科学力試験
15	講義のまとめ、夏休みの課題提示
16	

【履修上の注意事項】

「教育の思想と原則」と「教育心理学」の単位を修得済みでなければ受講できない。芝田クラスと登録者の調整を行う。受講者が少人数の場合、芝田クラスに統合することがある。7月末に高校公民科学力試験を行い、合格点に達しない者は不可とする。夏休みに課題（後期実施の模擬授業の指導案の素案と教材研究レポート）を課し、提出のない者は後期の演習に進めない。教育実習の事前指導科目として位置づけるので遅刻や無断欠席はしてはならない。現代社会・政治経済・倫理の教科書と用語集(山川出版)を必ず購入しておくこと。

【評価方法】

出席・参加状況と公民科学力試験によって行う。
遅刻と欠席が1度でもある場合、原則として不可とする。
割り当てられた課題発表ができなかった場合も不可とする。
期末実施の公民科学力試験(大学入試センター試験レベル)の6割未満の成績の場合、不可とする。
不可でない場合は優とする。

【テキスト】

配付するプリント資料。

【参考文献】

1. 加藤西郷他編著『社会・地歴・公民科教育論』高菅出版、2002年。 2. 森分孝治他編著『社会科重要用語300の基礎知識』明治図書、2000年。 3. 歴史教育者協議会 <http://www.jca.apc.org/rekkyo/>

社会科・公民科教育法

担当教員 福島 賢二

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本授業は、中学校社会科の教員免許状取得のために必須のものである。社会科といってもその対象とするところは、地理・歴史・公民と幅広い。そこで本授業では、社会科に通底する知識である「社会を科学的に分析する能力」を育むことを目標とする。こうした学習を通じて、自国の歴史のみを尊重する一面的な歴史観や他国の文化への寛容性を欠いた狭隘な文化理解を相対化していく。授業は毎時間報告者・報告グループを決め、発表とそれに対する質問と討議で展開していく。

【授業の展開計画】

- 1 ガイダンス
- 2 社会科とは何か
- 3 社会を科学する①（『社会を科学する』輪読）
- 4 社会を科学する②（『社会を科学する』輪読）
- 5 社会を科学する③（『社会を科学する』輪読）
- 6 社会を科学する④（『社会を科学する』輪読）
- 7 社会を科学する⑤（『社会を科学する』輪読）
- 8 授業づくりと方法①－歴史編
- 9 授業づくりと方法②－歴史編
- 10 授業づくりと方法③－歴史編
- 11 授業づくりと方法④－地理編
- 12 授業づくりと方法⑤－地理編
- 13 授業づくりと方法⑥－地理編
- 14 授業づくりと方法⑦－公民編
- 15 授業づくりと方法⑧－公民編
- 16 まとめ（試験→必要に応じて）

【履修上の注意事項】

- (1) 指定テキストの購入を義務づける。
 - (2) 報告者はレジュメ作成が課せられる。レジュメ作成を怠った場合、その時点で「不可」となる。
 - (3) 各自報告にあたっては、図書館での調べ物等かなりの時間を要することを念頭に入れておく。
 - (4) グループ報告及び討論のため、授業時間が延長することが頻繁にある。スケジュールを空けておくこと。
- ※ 以上の事柄をすべて遵守できるもののみ履修登録をすること

【評価方法】

評価は、出席状況、授業態度（質問・討議への参加状況など）、報告レジュメの作成、報告、その他のレポート提出によって総合的に行う。なお、報告レジュメの作成及び報告を行わない者は無条件に「不可」とする。

【テキスト】

浜林正夫『社会を科学する』学習の友社、1985年、1000円。

【参考文献】

歴史教育者協議会『あたらしい歴史教育①～⑦』大月書店、1994年。網野善彦『歴史を考えるヒント』新潮選書、2001年。小林汎ほか編『地球人の地理講座①～⑥』大月書店。犬丸義一ほか著『新社会発展史』学習の友社、1993年。浜林正夫『人権の思想史』吉川弘文館、1999年。

社会科・公民科教育法

担当教員 芝田 秀幹

対象学年 3年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義は、中等社会科、特に「高等学校公民科の教育課程」に関する教職科目として開講されたものである。公民科は、教科構成上も、沿革史的にも、地理歴史科と有機的に結びつき、戦後教育改革が生み出した社会科の総合教科の性格を強く持つ。それゆえ、公民科教育の前史である戦後社会科に関する歴史・理論を理解し、「高等学校公民科の教育課程」の現行の学習指導要領の特徴と問題点についても検討し、創造的に自主的に取り組まれてきた公民科（現代社会・倫理・政治経済）の実践報告を読みたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	クラス分け及び登録等
2	オリエンテーション
3	公民科とは何か (1) - 前史としての戦後社会科とはなにか -
4	公民科とは何か (2) - 前史としての戦後社会科とはなにか -
5	公民科とは何か (3) - 学習指導要領を手がかりに -
6	公民科とは何か (4) - 学習指導要領を手がかりに -
7	公民科とは何か (5) - 「社会科としての公民科」の発展性 -
8	公民科授業から学ぶ (1) - 「現代社会」の授業づくり -
9	公民科授業から学ぶ (2) - 「現代社会」の授業づくり -
10	公民科授業から学ぶ (3) - 「倫理」の授業づくり -
11	公民科授業から学ぶ (4) - 「倫理」の授業づくり -
12	公民科授業から学ぶ (5) - 「政治経済」の授業づくり -
13	公民科授業から学ぶ (6) - 「政治経済」の授業づくり -
14	公民科学習指導案の作成方法について
15	講義のまとめ - 模擬授業に向けて -
16	

【履修上の注意事項】

1. 教職研究 I ・教育の思想と原則・教育心理学の単位をすべて修得済みであること。2. 公民科の免許取得のための科目で、社会科のためのものではないので注意すること。3. 人数学科のバランスを考慮して芝田クラスと三村クラスの2クラスに分ける予定である。4. 全15回の講義の後に行われる基礎学力テストに及第しない場合は不合格となる。5. 夏休みに後期のために、課題研究（教材研究）及びその学習指導案の素案を課す。6. レポート未提出・無断遅刻・欠席等をいっさいしてはならない。 ※クラス分けの抽選を行う。

【評価方法】

1. 履修者を、5～6名程度の小学習班に分け、講義、レポート、及び討議をすることによって学習を進める。原則的に全出席し各自に課した小レポートを提出することによって、15回の授業が終了した後に行われる基礎学力テストを受ける資格を認める。
2. 成績評価は、1のすべての内容を勘案して行う。

【テキスト】

適宜配布するプリント教材等

【参考文献】

開講時に指定する。

社会科・公民科教育法演習

担当教員 三村 和則

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

前期の「社会科・公民科教育法」の履修成果を踏まえ、学習指導案を作成し、各自1時間（標準45分）の模擬授業を行い、授業実践の力量を身につける。生徒役として模擬授業を受ける際は授業の分析と批評を行い、授業実践の力量形成の一助とする。課外活動としてクラス行事を自主的に企画・実施し、学級経営の指導力量も形成したい。以上を通して、教育実習のための資質・能力を準備する。

【授業の展開計画】

基本的に毎回模擬授業者2名が模擬授業を1時間ずつ行う形で進めていく。模擬授業後には相互に授業批評を行う。

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス、夏休みの課題の受理
2	学習指導案の素案と教材研究レポートの講評
3	公民科の授業ビデオ視聴と「授業改善視点表」の記入方法について
4	模擬授業の実践
5	模擬授業の実践
6	模擬授業の実践
7	模擬授業の実践
8	模擬授業の実践、中間総括（成果と課題）
9	模擬授業の実践
10	模擬授業の実践
11	模擬授業の実践
12	模擬授業の実践
13	模擬授業の実践
14	模擬授業の実践
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

前期の「社会科・公民科教育法」三村クラスと連続して受講しなければならない。前の年度に単位修得済みの者でも前期に聴講しておかなければ受講できない。

夏休みの課題（模擬授業の指導案の素案と教材研究レポート）の提出のない者は受講できない。

模擬授業の指導案作成と事前練習に相当の時間と労力を要することを念頭におき、受講すること。

教育実習に直接つながる科目なので、遅刻や無断欠席は絶対にしてはならない。不合格となることがある。

【評価方法】

出席・参加状況と模擬授業によって行う。

遅刻と欠席が1度でもある場合、原則として不可とする。

提出物（修正指導案、授業感想、授業評価等）を提出しない場合、不可とする。

模擬授業を成立させることのできない場合、不可とする。

不可でない場合は優とする。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献】

1. 藤井剛『詳説 政治・経済研究』山川出版社、2008年、2. 全国民主主義教育研究会編『私たちの倫理読本』地歴社、2002年。3. 歴史教育者協議会 <http://www.jca.apc.org/rekkyo/>

社会科・公民科教育法演習

担当教員 吉浜 忍

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考 日文・英米以外

【授業のねらい】

「社会科・公民教育法」の履修成果を踏まえ、学習指導案を作成し、全員模擬授業を実践する。模擬授業は学校現場、中学生の社会科学習の実態などを意識して行う。また授業模擬授業の際、授業者以外の履修者は生徒役として参加し、授業分析や批評を行い、相互に実践的力を高めてもらう。

【授業の展開計画】

- 1 ガイダンス
- 2 班編成と模擬授業のテーマ設定
- 3 模擬授業と授業批評
- 4 模擬授業と授業批評
- 5 模擬授業と授業批評
- 6 模擬授業と授業批評
- 7 模擬授業と授業批評
- 8 模擬授業と授業批評
- 9 模擬授業と授業批評
- 10 模擬授業と授業批評
- 11 模擬授業と授業批評
- 12 模擬授業と授業批評
- 13 模擬授業と授業批評
- 14 模擬授業と授業批評
- 15 模擬授業と授業批評

【履修上の注意事項】

- (1) 3年次は「社会科・公民教育法」（2年後期）、4年次は「社会科・地理歴史教育法」（3年後期）の単位を修得済みでなければ受講できない。
- (2) 学習指導案作成と模擬授業の事前練習に、時間と労力を要することを念頭に置くこと。
- (3) 「教育実習A・B」につながる科目なので、無断欠席や遅刻は絶対にしないこと。
- (4) 3、4年次混合の班を編成し、学習集団の基礎単位とする。

【評価方法】

- (1) 模擬授業をしない者は無条件に不合格とする。
 - ①出席・態度・意欲 20点
 - ②提出物(授業評価表・授業反省文) 10点
 - ③学習指導案・模擬授業 70点
- ①+②+③=100満点で評価する。

【テキスト】

必要に応じて中学校地理・歴史・公民の教科書を購入する。
他については自作のテキストを使用する。

【参考文献】

講義のなかで適宜紹介する。

社会科・公民科教育法演習

担当教員 芝田 秀幹

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

前期の「社会科・公民科教育法」（旧課程の「公民科教育法」）を基礎にして、各自が公民科の学習指導案作成・模擬授業研究等の実践的な研究を中心とする教育実践研究を行う。

【授業の展開計画】

1 オリエンテーション及び登録

2～15 各自の学習指導案作成（細案）と模擬授業研究（標準45分授業とその検討学習）

【履修上の注意事項】

1. 授業時間以外に学習指導案作成・模擬授業の事前準備等の授業時間外に相当な労力と時間を要することも念頭に置き、受講すること。
 2. 同一担当者の前期の「社会科・公民科教育法」の単位を修得済みであること。
 3. 実習事前指導科目であるため、無断遅刻・欠席等をしてはならない。
 4. 学習指導案と教材研究レポート（夏休み課題）の提出のない者は受講不可である。
- ※クラス分けの抽選を行う。

【評価方法】

1. 履修者を、5～6名程度の小学習班に分け、各模擬授業のためのサブゼミをすることによって学習を進め、各自が模擬授業を行わなければならない。この科目は講義ではなく、大学内における教育実習の实地であるので、原則的に全出席し各自に課した小レポートをすべて提出しなければならない。
2. 成績評価は、1のすべての内容を勘案して行う。

【テキスト】

使用しない

【参考文献】

プリント教材。その他は開講時に指定する。

社会科・公民科教育法演習

担当教員 藤波 潔

対象学年 3年

単位区分 選必

準備事項

備考 日文・英米を除く

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

本講義は、社会科・公民科教育法で修得したことを前提として、中学校社会科教育における実践的な技能の修得を目的としている。具体的には、教材研究及び指導案作成の能力、模擬授業の実践能力、また他人の模擬授業に対する批判的分析能力の基礎の育成をめざす。また、本講義は4年次を対象とする社会科・地理歴史科教育法演習との合同授業であるので、すでに1回目の模擬授業を実施した4年生との交流を通じて教材研究の方法、指導案の作成方法等、模擬授業への取り組み方をしっかり学んでもらいたい。

【授業の展開計画】

受講生の数によっては、正規時間内では模擬授業を終了させることができないため、7校時または日曜日等に数回補講をおこなう。

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	グループ分けと模擬授業のテーマ決定
3	公民的分野の教育目的
4	指導案の書き方
5	模擬授業と批判的分析①
6	模擬授業と批判的分析②
7	模擬授業と批判的分析③
8	模擬授業と批判的分析④
9	模擬授業と批判的分析⑤
10	模擬授業と批判的分析⑥
11	模擬授業と批判的分析⑦
12	模擬授業と批判的分析⑧
13	模擬授業と批判的分析⑨
14	模擬授業と批判的分析⑩
15	模擬授業と批判的分析⑪
16	まとめ

【履修上の注意事項】

- ① 本講義は、教職課程の「教職に関する科目」として開講され、中学校社会科の教員免許の取得を目指す者に対して開設されており、福島先生担当の社会科・公民科教育法の単位修得を前提としている。
- ② 教職をめざす者が受講するのであるから、無断で遅刻・欠席しないことは勿論である。
- ③ 模擬授業への取り組みは個人作業であると同時に、グループによる共同作業でもある。参加者には、他のメンバーと共に学び、成長していこうとする意識をもって取り組んでもらいたい。

【評価方法】

出席状況（20%）、受講態度（10%）、授業時における発言（10%）、各自が作成した指導案および模擬授業への取り組み（60%）による総合評価。

【テキスト】

中学校社会科公民的分野の教科書、中学校学習指導要領。

【参考文献】

適宜紹介する。

社会科・公民科教育法演習

担当教員 野見 収

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「社会科・公民科教育法」における学習内容をふまえ、教育実習にむかって、学生各人が教材研究および指導案の作成を行い、それをもとに模擬授業およびその分析と評価を行う。本演習の眼目は、授業技術のみならず、参加者全員の相互協力、相互批評による総合的教職実践力の練成にある。したがって、学生各人のコミュニケーションスキルの深化が強く求められると考えてよい。

【授業の展開計画】

- 1 ガイダンス
- 2 自己紹介、グループ分け
- 3 社会科教育の目的と課題
- 4 指導案の書き方の復習
- 5 模擬授業・分析と評価 (1)
- 6 模擬授業・分析と評価 (2)
- 7 模擬授業・分析と評価 (3)
- 8 模擬授業・分析と評価 (4)
- 9 模擬授業・分析と評価 (5)
- 10 模擬授業・分析と評価 (6)
- 11 模擬授業・分析と評価 (7)
- 12 模擬授業・分析と評価 (8)
- 13 模擬授業・分析と評価 (9)
- 14 模擬授業・分析と評価 (10)
- 15 模擬授業・分析と評価 (11)

【履修上の注意事項】

「社会科・公民科教育法」の単位を取得済みでなければ受講できない。正当な理由のない遅刻、欠席は認めない。まわりの者は皆、同じ志をもつ「仲間」であるとの意識を強く持って受講して欲しい。

【評価方法】

受講態度、作成した指導案、模擬授業、その他提出物によって総合的に評価する。なお、模擬授業を行わない者は無条件に不合格とする。

【テキスト】

中学校社会科公民分野の教科書、中学校学習指導要領。

【参考文献】

適宜紹介する。

社会科・地理歴史科教育法

担当教員 崎浜 靖

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 法学部・経済学部・社会文化学科対象

【授業のねらい】

本講義では、高等学校の地理・歴史教育の理論の修得を基本に、授業研究・教材研究の方法を体得させる。とくに模擬授業への参加、授業実践論文の分析・討論を通して、現場に対応した学習指導案を作成する。また本講義では、学校現場の課題を検討するなかで、授業を行なう上で必要とされる実践的なトレーニングの場となることを目標とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	社会科・地理歴史科の歴史と学習指導要領
3	高等学校社会科教育（地理・歴史）の目標と課題
4	高等学校社会科教育（地理・歴史）の目標と課題
5	教材研究と授業方法論①
6	教材研究と授業方法論②
7	教材研究と授業方法論③
8	模擬授業の見学・討論①
9	模擬授業の見学・討論②
10	模擬授業の見学・討論③
11	学習指導案の作成
12	学習指導案の発表
13	学習指導案の発表
14	学習指導案の発表
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

- ①遅刻厳禁。②各種提出物の期日を厳守すること。③状況によっては、野外学習も予定している。
④その他、授業の中で指示する。⑤最初の講義の時間に授業のすすめ方について説明するので必ず出席のこと。
【法律学科・地域行政学科・経済学科・社会文化学科対象】

「教育の思想と原則」と「教育心理学」の単位を修得済みであること。

【評価方法】

- ①出欠・遅刻などにみられる授業への参加の程度。②授業時における質問・意見や討論・発表などにみられる熱意や態度。③授業感想文・意見文、課題レポート、学習指導案や野外学習などに示された学習・研究活動への熱意や成果。④その他、指定した課題レポートで総合的に判断する。

【テキスト】

高等学校用教科書：東京書籍『地理B』、東京書籍『新選日本史B』、東京書籍『世界史B』帝国書院『新詳高等地図』。学習指導要領解説編（高校地歴編）

【参考文献】

講義のなかで適宜紹介する。

社会科・地理歴史科教育法

担当教員 藤波 潔

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 法学部・経済学部・社文・人福対象

【授業のねらい】

近年、歴史教育に関する多様な意見が存在し、歴史教育に携わる者の社会的責任は増している。他方、学習指導要領の方向性は、歴史教育の発想の大きな転換を迫っている。そこで本講義では、中学校で社会科を教えることの意味、社会科を学ぶ意義、学校教育における歴史教育の意味と魅力ある歴史授業の在り方について、講義と班による討論、そして班レポートの作成を通じて理解することを目的とする。また、指導案の作成を通じて、教材研究の重要性を実感し、教育現場にたつための基本的技能の修得も目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	中学校教育における社会科教育の目的①
3	中学校教育における社会科教育の目的②
4	中学校をとりまく社会状況と社会科教員①
5	中学校をとりまく社会状況と社会科教員②
6	中学校をとりまく社会状況と社会科教員③
7	中学校をとりまく社会状況と社会科教員④
8	歴史教育をめぐる社会状況①
9	歴史教育をめぐる社会状況②
10	歴史教育をめぐる社会状況③
11	社会科における学力とは①
12	社会科における学力とは②
13	社会科における学力とは③
14	魅力ある歴史教育のための工夫
15	魅力ある地理教育のための工夫
16	まとめ

【履修上の注意事項】

- ① 本講義は、教職課程の「教職に関する科目」として開講され、中学校社会科の教員免許の取得を目指す者に対して開設されており、藤波担当の社会科・公民科教育法演習の単位修得を前提としている。
- ② 教職をめざす者が受講するのであるから、無断で遅刻・欠席しないことは勿論である。
- ③ 班のレポート、指導案の提出のない場合は不合格となる。
- ④ 自ら積極的に学ぼうとする意欲、ゼミの各種行事に積極的に関わろうとする意欲を強く持つことを求める。

【評価方法】

出席状況（30%）、受講態度（10%）、班毎に作成するレポート（40%）および指導案（20%）による総合評価。

【テキスト】

中学校社会科歴史的分野・地理的分野の教科書、中学校学習指導要領。

【参考文献】

適宜紹介する。

社会科・地理歴史科教育法

担当教員 吉浜 忍

対象学年 3年

単位区分 選必

準備事項

備考 法学部・経済学部・社文・人福対象

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

授業研究・教材研究などを実践的に訓練する中から、「楽しい授業、分かる授業」を追求する。その上で自己の授業イメージを形成し、学習指導案を作成することで結実させる。履修生の状況によっては実践的かつ訓練的な講義をすることもある。授業構想力・教材発掘と研究の成果を結実させた学習指導案の作成、さらに部分的な授業実践ができる授業力を育成する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	社会科の歴史と学習指導要領
3	授業研究①
4	授業研究②
5	授業研究③
6	教材研究①
7	教材研究②
8	教材研究③
9	学習指導案の作成
10	学習指導案の発表
11	学習指導案の発表
12	学習指導案の発表
13	学習指導案の発表
14	学習指導案の発表
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

- (1) 前期の「社会科・公民教育法演習」履修済みの者が受講できる。
- (2) 地域の教材化のため、時間外にフィールドワークも取り入れる。
- (3) 次年度の「教育実習A・B」につながる科目であるため、遅刻や無断欠席はしないこと。
- (4) 実践的な講義が望ましいと判断される場合には講義計画の変更もあり得る。

【評価方法】

- ①出席・態度・意欲 20点
 - ②課題レポート 10点
 - ③授業実践 20点
 - ④学習指導案（細案）50点
- ①+②+③+④=100点満点で評価する。

【テキスト】

必要に応じて中学校の歴史・地理・公民の教科書を購入すること。
他については自作のテキストを使用する。

【参考文献】

講義のなかで適宜紹介する。

社会科・地理歴史科教育法

担当教員 野見 収

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 法学部・経済学部・社会文化学科対象

【授業のねらい】

社会科教育は、子どもたちがその将来において、自らが住まう社会の成り立ちや現状をいかなるものとして考え、認識していくかを決定付ける、極めて責任の重い仕事である。そうである以上、社会科教員を志す者には、社会と教育に対する深い考察能力が求められることになる。したがって本講義ではまず、いくつかの資料・論考をもとに、ゼミ形式で議論をおこない、学生たちの社会科学的・教育学的考察能力の練成をめざす。そして、その学習成果をふまえて、教材研究、指導案作成、模擬授業の実践へと進む。

【授業の展開計画】

- 1 イントロダクション
- 2 中学校社会科教育における目的と課題
- 3 社会科学的・教育学的認識の練成 (1) 一ゼミ形式による討議①
- 4 社会科学的・教育学的認識の練成 (2) 一ゼミ形式による討議②
- 5 社会科学的・教育学的認識の練成 (3) 一ゼミ形式による討議③
- 6 社会科学的・教育学的認識の練成 (4) 一ゼミ形式による討議④
- 7 社会科学的・教育学的認識の練成 (5) 一ゼミ形式による討議⑤
- 8 社会科学的・教育学的認識の練成 (6) 一ゼミ形式による討議⑥
- 9 社会科学的・教育学的認識の練成 (7) 一ゼミ形式による討議⑦
- 10 模擬授業・分析と評価 (1)
- 11 模擬授業・分析と評価 (2)
- 12 模擬授業・分析と評価 (3)
- 13 模擬授業・分析と評価 (4)
- 14 模擬授業・分析と評価 (5)
- 15 模擬授業・分析と評価 (6)

【履修上の注意事項】

「社会科・公民科教育法演習」の単位を取得済みでなければ受講できない。正当な理由のない遅刻、欠席は認めない。まわりの者は皆、同じ志をもつ「仲間」であるとの意識を強く持って受講して欲しい。

【評価方法】

出席状況、受講態度、ゼミ発表、模擬授業、指導案、その他の提出物によって総合的に評価する。なお、ゼミ発表、模擬授業を行わない者は無条件に不合格とする。

【テキスト】

中学校社会科歴史的分野・地理的分野の教科書、中学校学習指導要領。

【参考文献】

適宜紹介する。

社会科・地理歴史科教育法演習

担当教員 小川 護

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ①前期の地理歴史科教育法の履修成果をふまえて模擬授業を実施する。
- ②教材研究と学習指導案について。
- ③模擬授業の自己評価および相互検討。
- ④県立糸満青少年の家における模擬授業の合宿とレクリエーション(1泊2日)の実施。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	模擬授業案成上の運営方法
2	教材研究および学習指導案の作成
3	教材研究および学習指導案の作成
4	高校における地理的分野の模擬授業実施と授業検討会
5	高校における地理的分野の模擬授業実施と授業検討会
6	高校における地理的分野の模擬授業実施と授業検討会
7	高校における地理的分野の模擬授業実施と授業検討会
8	高校における歴史的分野の模擬授業案施と授業検討会
9	高校における歴史的分野の模擬授業案施と授業検討会
10	高校における歴史的分野の模擬授業案施と授業検討会
11	高校における歴史的分野の模擬授業案施と授業検討会
12	高校における歴史的分野の模擬授業案施と授業検討会
13	高校における歴史的分野の模擬授業案施と授業検討会
14	県立糸満青年の家における模擬授業合宿(1泊2日)
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

- ①遅刻厳禁。
- ②各種提出物の期日を厳守すること。
- ③模擬授業時、発表者はリクルートルック(ネクタイ・スーツ等)の服装で受講のこと。
【法律学科・地域行政学科・経済学科・社会文化学科対象】

【評価方法】

- ①出欠・遅刻などにみられる授業への参加の程度。
- ②学習指導案の内容と模擬授業の成果。
- ③模擬授業合評会での発言および熱意・態度。
- ④授業感想文・意見文、課題レポートなどに示された学習活動への熱意や態度で総合的に判断する。

【テキスト】

東京書籍『地理B』、東京書籍『新選日本史B』、東京書籍『新選世界史B』、帝国書院『地歴高等地図 -現代世界とその歴史的背景- 最新版』 1,575円、学習指導要領解説編(高校地歴)および副教材。以上の教科書・地図帳・学習指導要領解説編は購入のこと。

【参考文献】

随時、紹介する。

社会科・地理歴史科教育法演習

担当教員 藤波 潔

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は、社会科地理歴史科教育法で修得したことを前提として、社会科教育の実践的な技能の修得・向上、並びに最後の模擬授業実践を通じた教育実習参加への意識高揚を目的としている。具体的には、指導案作成能力、模擬授業を通じた授業実践能力、模擬授業への参加による授業批判力等の技能の向上をめざす。さらに、本講義は3年生を対象とする社会科公民科教育法演習との合同授業なので、これから模擬授業を実施しようとする3年生の見本となるように教材研究、指導案の作成、模擬授業の実践等に取り組んでもらいたい。

【授業の展開計画】

受講者の数によっては、正規時間内では模擬授業を終了させることができないため、7校時または日曜日等に数回補講をおこなう。

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	グループ分けと模擬授業のテーマ決定
3	社会科の教育目的の復習
4	模擬授業と批判的分析①
5	模擬授業と批判的分析②
6	模擬授業と批判的分析③
7	模擬授業と批判的分析④
8	模擬授業と批判的分析⑤
9	模擬授業と批判的分析⑥
10	模擬授業と批判的分析⑦
11	模擬授業と批判的分析⑧
12	模擬授業と批判的分析⑨
13	模擬授業と批判的分析⑩
14	模擬授業と批判的分析⑪
15	模擬授業と批判的分析⑫
16	まとめ

【履修上の注意事項】

- ① 本講義は、教職課程の「教職に関する科目」として開講され、中学校社会科の教員免許の取得を目指す者に対して開設されており、藤波担当の社会科・地理歴史科教育法の単位修得を前提としている。
- ② 教職をめざす者が受講するのであるから、無断で遅刻・欠席しないことは勿論である。
- ③ 模擬授業への取り組みは個人作業であると同時に、グループによる共同作業でもある。参加者には、他のメンバーと共に学び、成長していこうとする意識をもって取り組んでもらいたい。

【評価方法】

出席状況（20%）、受講態度（10%）、授業時における発言（10%）、各自が作成した指導案および模擬授業への取り組み（60%）による総合評価。

【テキスト】

中学校社会科歴史的分野・地理的分野の教科書、中学校学習指導要領。

【参考文献】

適宜紹介する。

社会科・地理歴史科教育法演習

担当教員 吉浜 忍

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考 法律・地域行政・商経・社文・人福

【授業のねらい】

「社会科・公民教育法」「社会科・地理歴史科教育法」の履修成果を踏まえ、学習指導案を作成し、全員模擬授業を実践する。模擬授業は、学校現場、中学生の社会科学習の実態を意識して行う。模擬授業の際、授業者以外の履修者は生徒役として参加し、授業分析や批評を行い、相互に実践的力量を高めてもらう。

【授業の展開計画】

- 1 ガイダンス
- 2 班編成と模擬授業のテーマ設定
- 3 模擬授業と授業批評
- 4 模擬授業と授業批評
- 5 模擬授業と授業批評
- 6 模擬授業と授業批評
- 7 模擬授業と授業批評
- 8 模擬授業と授業批評
- 9 模擬授業と授業批評
- 10 模擬授業と修行批評
- 11 模擬授業と授業批評
- 12 模擬授業と授業批評
- 13 模擬授業と授業批評
- 14 模擬授業と授業批評
- 15 模擬授業と授業批評

【履修上の注意事項】

- (1) 「社会科・地理歴史科教育法」（3年後期）の単位を修得済みでなければ受講できない。
- (2) 学習指導案作成と模擬授業の事前練習に、時間と労力を要することを念頭に置くこと。
- (3) 「教育実習A・B」につながる科目なので、無断欠席や遅刻は絶対にしないこと。
- (4) 3, 4年次混合の班を編成し、学習集団の基礎単位とする。
- (5) ガイダンスは中学校の2つのゼミ(藤波ゼミ・吉浜ゼミ)合同で実施する。

【評価方法】

- (1) 模擬授業をしない者は無条件に不合格とする。
- (2) ①出席・態度・意欲 20点
②提出物(授業評価表・授業反省文) 10点
③学習指導案・模擬授業 70点
①+②+③=100点満点で評価する。

【テキスト】

必要に応じて中学校地理・歴史・公民の教科書を購入する。
他については自作のテキストを使用する。

【参考文献】

必要に応じて適宜紹介する。

社会科・地理歴史科教育法演習

担当教員 野見 収

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「社会科・地理歴史科教育法」における学習内容をふまえ、教育実習にむかって、学生各人が教材研究および指導案の作成を行い、それをもとに模擬授業およびその分析と評価を行う。本演習の眼目は、授業技術のみならず、参加者全員の相互協力、相互批評による総合的教職実践力の練成にある。したがって、学生各人のコミュニケーションスキルの深化が強く求められると考えてよい。

【授業の展開計画】

- 1 ガイダンス
- 2 自己紹介、グループ分け
- 3 社会科教育の目的と課題
- 4 模擬授業・分析と評価 (1)
- 5 模擬授業・分析と評価 (2)
- 6 模擬授業・分析と評価 (3)
- 7 模擬授業・分析と評価 (4)
- 8 模擬授業・分析と評価 (5)
- 9 模擬授業・分析と評価 (6)
- 10 模擬授業・分析と評価 (7)
- 11 模擬授業・分析と評価 (8)
- 12 模擬授業・分析と評価 (9)
- 13 模擬授業・分析と評価 (10)
- 14 模擬授業・分析と評価 (11)
- 15 模擬授業・分析と評価 (12)

【履修上の注意事項】

「社会科・地理歴史科教育法」の単位を取得済みでなければ受講できない。正当な理由のない遅刻、欠席は認めない。まわりの者は皆、同じ志をもつ「仲間」であるとの意識を強く持って受講して欲しい。

【評価方法】

受講態度、作成した指導案、模擬授業、その他提出物によって総合的に評価する。なお、模擬授業を行わない者は無条件に不合格とする。

【テキスト】

中学校社会科歴史的分野・地理的分野の教科書、中学校学習指導要領。

【参考文献】

適宜紹介する。

商業科教育法

担当教員 清村 英之

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義ではまず、商業教育の歴史的変遷をたどることで、高等学校における商業教育の意義と役割を学びます。次いで、現行の学習指導要領に基づき、①教科「商業」の目標と組織、②各科目の目標と授業内容を理解します。さらに、後期の模擬授業に向けて、学習指導の形態と方法、学習指導案の作成方法を学びます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	高等学校における商業教育の意義
3	高等学校における商業教育の歴史（教育課程の変遷）
4	現行学習指導要領における教科「商業」の目標と組織
5	各科目の目標と授業内容（教科の基礎的な科目）
6	各科目の目標と授業内容（教科の総合的な科目）
7	各科目の目標と授業内容（流通ビジネス分野の科目）
8	各科目の目標と授業内容（国際経済分野の科目）
9	各科目の目標と授業内容（簿記会計分野の科目）
10	各科目の目標と授業内容（経営情報分野の科目）
11	学習指導の形態と方法
12	評価
13	学習指導案の作成（ビジネス基礎）
14	学習指導案の作成（簿記）
15	高等学校における商業教育の現状と課題
16	まとめ

【履修上の注意事項】

- ① 教員を目指す者が受講する科目なので、遅刻・無断欠席は認めません。
- ② 教育実習に最低限必要な技能（日商簿記検定2級・販売士検定3級レベル）の習得に努めてください。

【評価方法】

出席、受講態度、課題などで、総合的に評価します。

【テキスト】

高等学校「ビジネス基礎」「簿記」の教科書。
学習指導要領（商業科）解説。

【参考文献】

日本商業教育学会『教職必修最新商業科教育法』実教出版。
吉野弘一『商業科教育法－21世紀のビジネス教育』実教出版。

商業科教育法演習

担当教員 清村 英之

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

来年6月の教育実習に向けて、模擬授業を実施します。模擬授業を行うことによって、学習指導案の作成方法や効果的な指導方法など、実践的な技能を習得します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	模擬授業
3	模擬授業
4	模擬授業
5	模擬授業
6	模擬授業
7	模擬授業
8	社会人講師（高校の教員）による講話
9	模擬授業
10	模擬授業
11	模擬授業
12	模擬授業
13	模擬授業
14	模擬授業
15	模擬授業
16	まとめ

【履修上の注意事項】

- ① 「商業科教育法」を履修済みの学生しか登録できません。
- ② 教員を目指す者が受講する科目なので、遅刻・無断欠席は認めません。
- ③ 教育実習に最低限必要な技能（日商簿記検定2級・販売士検定3級レベル）の習得に努めてください。

【評価方法】

出席、受講態度、課題などで、総合的に評価します。

【テキスト】

高等学校「ビジネス基礎」「簿記」の教科書。

【参考文献】

使用しません。

進路指導・生活指導

担当教員 片本 恵利

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本科目は、入門科目の基礎を踏まえ、グループワークやロールプレイを交えながら、学校現場の実際に即してより実践的に学んでいく[中級編]である。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・登録調整
2	生活指導の心理学とは
3	発達① 思春期・青年期① 学校現場での性教育
4	発達② 思春期・青年期② アイデンティティ
5	進路指導① 進路指導の歴史とキャリア・カウンセリング/青年期の発達課題を踏まえた進路指導
6	進路指導② 生徒の心に添う進路指導とは
7	学級・授業運営のヒント① いじめと体罰 その1
8	学級・授業運営のヒント② いじめと体罰 その2
9	生徒の示す問題行動の理解① 不登校 その1
10	生徒の示す問題行動の理解② 不登校 その2
11	生徒の示す問題行動の理解③ 非行 その1 (わが国の非行の動向/薬物乱用)
12	生徒の示す問題行動の理解④ 非行 その2 (初発型非行への対応)
13	生徒の示す問題行動の理解⑤ 実践例に学ぶ
14	教師と保護者・専門機関との連携
15	まとめと振り返り
16	

【履修上の注意事項】

受講環境を考慮して、他のクラスへ移動してもらうこともある。

【評価方法】

課題レポート、筆記試験、授業への参加態度などから総合的に評価する。
教職を目指すに当たって必要な「読む・書く・話す」力を身につけていることを単位取得の条件とするため、予習・復習の課題レポートを重視する。

【テキスト】

白井利明「生活指導の心理学」 勁草書房

【参考文献】

水谷 修「さらば、哀しみのドラッグ」高文研
森田ゆり「子どもと暴力」岩波書店

進路指導・生活指導

担当教員 伊是名 聡

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

進路指導・生活指導

担当教員 渡嘉敷 あゆみ

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義では、学校現場で遭遇する生活指導上の問題への対応や、進路指導（キャリア教育）の実践について、グループワークも取り入れながら理論と対応を学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：進路指導・生活指導とは
2	発達①定型発達
3	発達②心理・社会的発達
4	教師と子どもの間で起こること
5	子どもや保護者への対応①カウンセリングとは
6	子どもや保護者への対応②カウンセリングの方法
7	事例を通して学ぶ対応①不登校
8	事例を通して学ぶ対応②いじめ
9	事例を通して学ぶ対応③発達の問題
10	事例を通して学ぶ対応④非行（1）
11	事例を通して学ぶ対応⑤非行（2）
12	キャリア教育①キャリア発達
13	キャリア教育②キャリア教育の推進
14	事例を通して学ぶ対応⑥進路指導
15	まとめと振り返り
16	テスト

【履修上の注意事項】

さまざまなワークを実施するので、積極的な姿勢で臨んで頂きたい。

【評価方法】

出席、授業態度、ワークシート、テストで総合的に評価する。

【テキスト】

『生活指導の心理学』 白井利明 勁草書房

【参考文献】

講義を通して、随時紹介する。

進路指導・生活指導

担当教員 東畑 開人

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

教育現場での諸問題に対応できることを目指す。自ら主体的に発言することが求められる

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	生徒指導と心理学
3	心理学①その歴史
4	心理学②人間理解の方法
5	発達①こどものころと大人のころ
6	発達②思春期のころ
7	進路指導①その歴史
8	進路指導②実際的な問題
9	学級と授業運営①いじめと体罰
10	問題行動の理解①不登校
11	問題行動の理解②発達障害
12	問題行動の理解③悪について
13	教師・専門機関との連携
14	さまざまな子供たち
15	テストと論述について
16	心理学すること

【履修上の注意事項】

【評価方法】

テストとレポート

【テキスト】

【参考文献】

情報科教育法

担当教員 安里 肇

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

情報科教員には、教員としての基本的な資質に加えて、一般の生徒に情報を教える能力や専門高校（情報科など）の生徒により専門的な情報教育を行う能力が必要となる。よって、自分自身が情報の各分野において深く本質を理解するとともに、それを高校生に効果的に教えるという教育技術も必要とされる。本講義では、教科としての「情報」の設置の経緯やその意味を考察して、現代社会における情報技術の必要性、今後の社会における情報技術の将来展望を解説し、各項目ごとの教育プランを体系的に学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス／受講受付
2	情報科設立の経緯とその意味（情報教育の歴史）
3	情報教育の現状と課題
4	情報産業と社会の分野について（目標・内容と指導方法の考察）
5	インターネットと倫理教育の分野について（目標・内容と指導方法の考察）
6	情報の表現の分野について（目標・内容と指導方法の考察）
7	アルゴリズムとフローチャートの分野について（目標・内容と指導方法の考察）
8	情報システムの設計と開発の分野について（目標・内容と指導方法の考察）
9	ネットワークシステムの構築と管理運営の分野について（目標・内容と指導方法の考察）
10	経済モデルとコンピュータシミュレーションの分野について（目標・内容と指導方法の考察）
11	コンピュータグラフィックスとデザインの分野について（目標・内容と指導方法の考察）
12	マルチメディア表現の方法の分野について（目標・内容と指導方法の考察）
13	情報各分野の模擬授業指導案の作成方法（1）
14	情報各分野の模擬授業指導案の作成方法（2）
15	後期「情報科教育法演習」の計画発表
16	総括

【履修上の注意事項】

教職志望の学生のみ登録を受け付け、「教育の思想と原則」「教育心理学」のそれぞれの単位を修得済みでなければ受講できない。「情報科教育演習」で行う模擬授業の準備が必要である。そのため、各担当分野の模擬授業指導案の素案を作成しなければならない。指導案の素案および出席状況を総合的に判断し評価する。また、登録は第1週目に行う。第1週目に登録できない者は事前に担当者に相談すること。なお、「ITパスポート試験」は必ず取得しておかなければならない。

【評価方法】

基本的に欠席は認めない。授業態度とレポートで総合的に判断する。

【テキスト】

講義開始時に指定する。

【参考文献】

「情報科教育法」大岩元他，オーム社。「情報教育シリーズ 情報科教育法」岡本敏雄他，丸善。

情報科教育法演習

担当教員 砂川 徹夫

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

前期の「情報科教育法」の履修成果を踏まえ、学習指導案を作成し、各自1時間（標準45分）の模擬授業を複数回行う。模擬授業を受ける際も授業分析を行わせ、授業実践の力量形成の一助とする。

【授業の展開計画】

1週目：ガイダンス

2週目：過去の授業資料配布および担当単元の設定、「授業改善視点表」の記入方法について

3～15週目：模擬授業

（学習指導案作成の指導と授業展開方法の指導並びに授業分析方法の指導）

教師役：学習指導案と教材資料の準備が完了後45分間の模擬授業を行う。授業後感想文を提出する。

生徒役：模擬授業を受ける。授業後は「授業改善視点表」を提出する。決められた担当者は「授業批評」を提出する。

16週目：総括

【履修上の注意事項】

(1)「情報科教育法」の単位を修得済みでなければ受講できない。

また、「ITパスポート試験」もしくは「基本情報技術者試験」を取得済みでないと受講できない。

(2)模擬授業の学習指導案作成と事前練習に相当の時間と労力を要することを念頭において受講すること。

(3)教育実習に直接つながる科目なので、遅刻や無断欠席は絶対してはならない。

【評価方法】

出席状況、学習指導案作成並びに模擬授業の教師役感想文や生徒役の授業改善視点表等によって評価する。

【テキスト】

『高等学校学習指導要領解説 情報編』

【参考文献】

「情報」教科書

『高等学校学習指導要領』

特別活動演習

担当教員 喜屋武 幸

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 集中

授業形態 演習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

特別活動演習

担当教員 神山 英輝

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 集中

授業形態 演習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

特別活動演習

担当教員 仲里 健

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 集中

授業形態 演習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

特別活動演習

担当教員 喜瀬 乗進

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 集中

授業形態 演習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

学級集団づくりの実践活動をする。学級集団の中で子どもたちが安心して仲間たちと交わるようにするにはどんな指導を組み立てればいいのか、それをワークショップ形式で講義を進める。子どもたちがお互いの違いを大切にしながら仲間としてつながっていくことの楽しさ・大切さも学んでいく学級・学校づくりを学習する。

【授業の展開計画】

- 1) 自分を語ろう・仲間をつくろう。楽しい班会議をグループワークで
- 2) なぜ、今、集団づくりか。内容の是非ではなくて聴いて共感できる先生に
- 3) 遊び心で子どもに共感し子どもとつながれる先生に
- 4) 子どもが、自分を出せる安心な居場所をつくる先生になるには
- 5) 一人の子どもの要求をみんなで考える学級を育てる先生に
- 6) 人間の尊厳を教えることでいじめの指導ができる先生に
- 7) マンガ甲子園で討議づくりを教える先生に
- 8) プラスの関係性を育てて生徒指導ができる先生に
- 9) 楽しい学校づくりの各班の発表

【履修上の注意事項】

特になし

【評価方法】

出席、演習課題、授業態度の総合で評価する

【テキスト】

特になし

【参考文献】

教師力（上下）川村茂雄著 誠心書房
生活指導（月刊誌）全国生活指導研究協議会編 明治図書

特別活動演習

担当教員 津多 則光

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 集中

授業形態 演習

単位数 1

【授業のねらい】

「特別活動」は人間の生きる力に直接関わって学校教育全般にわたるバックボーンとしての役割を担っている。それだけに、人間教育の側面を強く持ち、指導の多様さと奥深さを持つ。教育課程では「学級活動」「生徒会活動」「学校行事」に総時数35時間が配当されているが、時間内で多様に亘る内容を指導するには形式的に流れるきらいがある。

【授業の展開計画】

本講義は、多岐多様にわたる「特別活動」の内容から根本要素を取り出し、それらを系統化させ、生徒を中心にした有機的な活動を展開する中から、「特別活動」の目標を効果的に達成させようとするものである。

(1) 学級を基盤として…①学級づくり②学級会活動③学級行事④進路学習⑤教育相談

(2) 学年・生徒会・学校を基盤として…①自主的な行事の創造 ②生徒の能力を伸ばす学校行事 ③ボランティア活動 ④学校の問題の改善・積極的主体的な学校生活

【授業内容】

(1) 第一日

☆課題1…教師は生徒一人ひとりとどう向き合うか。

① [発表・討論] 「教師は日本の子供をどうとらえたら良いか」

② 子どもはどういう存在か ③ 子どもとの接し方

④ [演習 I・ディベート] 「教師の体罰は是か否か」

☆課題2…教師は学級づくりをどう進めるか。

① [発表・討論] 「素晴らしい学級をどう育てるのか」

② 学級担任は学級成員の何を育てるか

③ [実習] 「学級総会—班対抗学級レク大会実施計画」

④ 保護者との連携 ⑤ [実習] 「学級通信の意義と作成」

(2) 第二日

☆課題3…教師は学級(生徒)の問題をどう克服するか。

① [発表・討論] 「恭平(仮名)のいじめをどう解決するか」

② [事例研究—討議・発表] 学級の問題の実態と背景 ③ 学級問題の解決の視点

☆課題4…教師は素晴らしい学校行事をどう創るか。

① [発表・討論] 「素晴らしい学校行事をどう創るか」

② 学校行事で何を育てるか ③ [実習] 「学級行事・班対抗学級レク大会」

④ [実技] 「原案づくり・転入生の歓迎会をやる」

☆課題5…教師は学校教育全体とどう関わるか

① [発表・討論] 「教師として学校の問題をどう解決するか」

② 学校の問題 ③ これからの教師像

【履修上の注意事項】

【評価方法】

1 評価の対象…「課題報告書」と作品を主に、受講状況、受講感想等を加味する。

(1) 課題報告書…①報告書…課題から一点選択 ②「学級通信」作品1部

(2) 受講状況…ディスカッションや発表、表現、動く力(動かす力)、課題意識等

【テキスト】

【参考文献】

特別活動演習

担当教員 許田 洋子

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 集中

授業形態 演習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

「ホームルーム」が楽しいと「学校生活」も楽しい。「ホームルーム活動」充実したものにするために、高校における「特別活動」をどう創りあげていくかを受講生とともに考え、学びたい。ホームルーム運営、行事などの具体的事例について一人ひとりが指導計画を作成し、それを実践（模擬LHR）し、全員で検討する。討議は班を中心に二重討議で行う。

【授業の展開計画】

「班」を中心に活動し、共同で作業にあたることで学んだことを共有する。全員が五感と六感目のインスピレーションを総動員して、創意工夫にみちたものを積極的に創り上げていく。現場の声も伝えたい。

1日目

- | | |
|---------------|---------------|
| 1：自己紹介と「集団遊び」 | 2：「学級通信」をつくろう |
| 3：「原案」をつくる | 4：ディベートをしよう |

2日目

- | | |
|----------------|--------------|
| 1：「特設LHR」のとりくみ | 2：「HR担任」とは |
| 3：今、学校では | 4：2日間のまとめの発表 |

【履修上の注意事項】

課題の期限内提出。積極的・主体的な授業に参加する。

【評価方法】

- | | |
|-----------------------|--------------------------|
| 1：レポートの内容（①個人作成 ②班作成） | 2：授業に臨む姿勢（積極性・独創性・共同性など） |
| 3：出席状況 | 4：生徒による相互評価 |
- などを判断して評価する。

【テキスト】

使用しない。プリント配布する。

【参考文献】

おまかせHR研究会「担任のアイデア100連発」学事出版2002年

特別活動演習

担当教員 比嘉 靖

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 集中

授業形態 演習

単位数 1

【授業のねらい】

現在の高校生の生活の事実に注目して、特別活動の実践の仕方を演習を通して学ぶ。受講者間での「二重討議による学びと合意形成の手法」、「ホームルーム運営の指導の実務」の演習を通して、「高校教育における特別活動の意義と可能性」について、受講者が自らの教育観を問える授業に発展させたい。

【授業の展開計画】

1日目（前半）

- ① 生徒にとって必要な「生活のめあてと活動」を、どう育てるか
（※学級ひらきとホームルーム活動の展開について）
（後半）
- ② 生徒が取り組む「学習・進路対策活動」を、どう育てるか
（※学習と進路対策に挑む自治的能力の形成について）

2日目（前半）

- ③ 生徒達に取り組む「文化づくり」の活動を、どう育てるか
（※「行事」で育つ生徒達の「意味のある経験」について）
（後半）
- ④ 特別活動の可能性と教師の指導性について
（※「教科教育と特別活動の並行的形成作用」を問える教師の指導性について）

【履修上の注意事項】

- ① 受講者のグループ分けと受講要領の詳細を、オリエンテーションで指示する。受講者は、必ずオリエンテーションに参加すること。
- ② 「参加・討論型」（二重討議方式）の授業なので、受講者は討論に参加できる事前の学習（資料を読み込んで）を踏んで参加すること。
集中講義なので、全日程の出席を期待する。

【評価方法】

沖縄国際大学の学部共通の成績評価規程に従い行う。詳細は次のとおりとする。① 学習グループ毎の発表レジメの作成過程と内容、発表の仕方、② 授業（二重討議方式）への参加態度、③ 小テスト（15分程度）を3回行った成績と、④ 出席の結果を総合して評価する。

【テキスト】

使用しない 以下の資料を提供する①実践記録と資料 ②過去の受講者の発表レジメと資料 ③教育実践記録の映像資料

【参考文献】

『おとなが子どもと出会うとき 子どもが世界を立ちあげるとき』-教師の仕事- 竹内常一著：桜井書店
『学校を変える 学級を変える』 浅野誠著：青木書店

特別活動研究

担当教員 三村 和則

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

特別活動の指導法に係る科目である。特別活動の内容は学級活動(進路指導と学業指導を含む)、生徒会活動及び学校行事に分けられる。それらを指導する際、その基礎となり、かなめとなるのは学級経営のあり方である。本講義では学級経営研究の一助として「学級集団づくり」の思想と方法を多様な角度から研究していく。「学級集団づくり」とは子どもの必要と要求に基づき自治的・自主的な学級活動をすすめ、学級を民主的集団に形成し、子どもを民主的な権利主体・自治主体に高め、同時に人間的自立を励ましていく営みのことである。

【授業の展開計画】

まず、今日の子どもの自立をめぐる問題状況を踏まえ、子どもの見方・捉え方について研究し、そこでの子ども観を基礎にした「学級集団づくり」の方法論を、話し合いによる合意形成と自主管理の指導、リーダーとフォロアーの指導、小集団(班)指導の3つの側面から考察していく。それらに内在させて学級活動、生徒会活動及び学校行事の意義と具体的指導内容を検討する。

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス
2	子どもの自立をめぐる問題状況 1
3	子どもの自立をめぐる問題状況 2
4	子どもの自立をめぐる問題状況 3
5	共感的要求とその方法 1
6	共感的要求とその方法 2
7	学級における集団の種類
8	「学級集団づくり」の3つの段階(指導の見通し)と3つの側面(指導の切り口)
9	「討議づくり」1 合意形成の指導と自主管理の指導
10	「討議づくり」2 学級行事原案づくりコンテスト
11	「核(リーダー)づくり」リーダーシップとフォロアーシップの形成
12	「班づくり」1 居場所と自治の基礎単位としての班
13	「班づくり」2 班活動の種類と方法
14	「学級集団づくり」から全校集団づくりへ
15	本講義のまとめと予備
16	試験

【履修上の注意事項】

抽選となった場合、4年次から優先して登録を受け付ける。

学級担任の役割とは何か、中学と高校で朝の会・終わりの会・SHR、学級会・LHR、学級行事や学校行事で、何をしてきたか、また自分は何をすればよいのか、生徒に何を語り、何をしたいのかを考えながら受講するとよい。教育実習の年(3年生2月)の「特別活動演習」(集中講義)を受講する際、この講義内容と関連させると演習の理解が促進されるであろう。

【評価方法】

小レポートを3回程度書いてもらい、その3分の2以上の提出をもって最終日の試験の受験資格とする。

評価は最終日の試験によって行い、小レポートの提出状況と内容により±3点を加点する。

試験が論述問題の場合、各設問に関わる講義内容(専門用語や重要事項)の出現率に対応して(100%=満点)配点する。

試験以外に課題(「学級集団づくり」構造表の書写など)を課し、30点程度配点することがある。

【テキスト】

配付するプリント資料。

【参考文献】

1. 全国生活指導研究協議会常任委員会編『新版 学級集団づくり入門 中学校』明治図書、1991年。2. 高田清他編『特別活動の基礎と展開』コレール社、1999年。3. 全生研<http://members.jcom.home.ne.jp/zenseiken/>

道徳教育の研究

担当教員 三村 和則

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

道徳の指導方法に係る科目として設けられた科目である。道徳教育の意味、わが国の学校における道徳教育の歴史、教育課程の各領域（「教科」「特別活動」「道徳」「総合的な学習の時間」）における道徳教育の方法論を学ぶことにより、今日における道徳教育のあり方を批判的に吟味する視野と学校現場で道徳教育を創造的に実践する資質と能力を形成する。

【授業の展開計画】

まず、道徳教育の意味について明らかにする。次に、明治以降、今日までのわが国の学校における道徳教育の歴史を考察する。特に、戦前・戦中期の教育勅語を基礎に置き修身科の授業を中核とし他の授業及び教科外教育によって補完された、学校挙げての道徳教育体制である「修身教育体制」の生成・展開・消滅の過程を考察の対象とする。講義の後半では教育課程の各領域ごとに道徳教育の方法論を事例を通して考察する。

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス
2	道徳と道徳教育の構造
3	世界の学校における道徳教育 1
4	世界の学校における道徳教育 2
5	教育勅語と修身教育体制 1
6	教育勅語と修身教育体制 2
7	修身教育体制への批判と抵抗
8	戦後教育改革と修身教育体制の解体
9	全面主義道徳とその変質過程
10	特設道徳（「道徳の時間」）以降の道徳教育
11	教科における道徳教育（訓育的教授）
12	特別活動と総合的な学習の時間における道徳教育
13	特設道徳（道徳の時間）の実践方法 1
14	特設道徳（道徳の時間）の実践方法 2
15	特設道徳（道徳の時間）の授業の指導案づくり
16	試験

【履修上の注意事項】

「教育の思想と原則」と「教育心理学」の単位を修得済みでなければ受講できない。抽選となった場合、4年次から優先して登録を受け付ける。道徳とは何か、現代社会ではどんな道徳が望ましいか、中学校の「道徳の時間」をどのように過ごしたか、教育実習でどのように「道徳の時間」を展開したらよいか、教科の授業や特別活動の時間などで道徳性を育てるとはどのようなことか、道徳性を育てることはどうして難しいのか、などの問題意識をもって受講するとよい。

【評価方法】

小レポートを3回程度書いてもらい、その3分の2以上の提出をもって最終日の試験の受験資格とする。評価は主として最終日の試験によって行い、小レポートの提出状況と内容により±3点を加点する。試験が論述問題の場合、各設問に関わる講義内容（専門用語や重要事項）の出現率に対応して（100%＝満点）配点する。特設道徳（道徳の時間）について、授業指導案の作成や実践記録の分析レポートを課し、それに各15点配点することがある。

【テキスト】

配付するプリント資料。

【参考文献】

1. 藤田昌士『学校教育と愛国心－戦前・戦後の「愛国心」教育の奇跡』学習の友社、2008年。 2. 川村正彦他編著『道徳教育の基礎と展望』福村出版、1999年。 3. 柴田義松編著『道徳教育－理論と実際』学文社、1992年。

道徳教育の研究

担当教員 -上地 完治

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

道徳教育の研究

担当教員 福島 賢二

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本授業は、道徳に関する知識を社会科学的な視点から獲得することを目的とした「教職に関する科目」である。道徳とは極めて論争的な「教科」である。そもそも道徳を学校で教えることができるのか／学校で教えてよいのか、という問題が我が国においてはほとんど議論がなされず、戦後ある時期に「教科」として特設された。本授業ではまず道徳を公教育で行うことの問題性について国家の思想統制との関係から理解していく。そのうえで、公教育として道徳の伝達可能な範囲を見極め、公教育として可能な範囲の道徳の授業の方法と内容を検討していく。授業は毎時間、報告者・報告グループを決め、発表とそれに対する質問と討議で展開していく予定である。

【授業の展開計画】

- 1 ガイダンス
- 2 戦後教育における「道徳」の位置
- 3 道徳教育を考える①（『教育と国家』輪読）
- 4 道徳教育を考える②（『教育と国家』輪読）
- 5 道徳教育を考える③（『教育と国家』輪読）
- 6 道徳教育を考える④（『教育と国家』輪読）
- 7 道徳教育を考える⑤（『教育と国家』輪読）
- 8 道徳教育を考える⑥（『教育と国家』輪読）
- 9 道徳の伝達可能な範囲とは？①
- 10 道徳の伝達可能な範囲とは？②
- 11 道徳の授業の内容と方法①
- 12 道徳の授業の内容と方法②
- 13 道徳の授業の内容と方法③
- 14 道徳の授業の内容と方法④
- 15 道徳の授業の内容と方法⑤
- 16 まとめ（試験→必要に応じて）

【履修上の注意事項】

- (1) 「教育の思想と原則」と「教育心理学」の単位を修得済みでなければ受講できない。
- (2) 指定テキストの購入が義務づけられる。前半の授業はテキストの輪読を行う。
- (3) 報告者は輪読の際、レジュメ作成が課せられる。レジュメ作成を怠った場合その時点で「不可」となる。
- (4) 各自報告にあたっては、図書館での調べ物等かなりの時間を要することを念頭に入れておく。
- (5) グループ報告及び討議のため、授業時間が延長することが頻繁にある。スケジュールを空けておくこと。

【評価方法】

評価は、①受講態度（質問・討議への参加状況など）、②報告レジュメの作成と内容及び発表、③レポート課題の提出及び内容、④期末試験（又は最終レポート）の内容、によって総合的に行う。

【テキスト】

高橋哲哉『教育と国家』講談社現代新書、2004年、756円。

【参考文献】

井ノ口淳三編『道徳教育』学文社、2007年。西原博史『良心の自由と子どもたち』岩波新書、2006年。高橋哲哉『「1心」と戦争』晶文社、2003年。三宅晶子『「心のノート」を考える』岩波ブックレット、2006年。松下良平『知ることの力』勁草書房、2002年。

福祉科教育法

担当教員 比嘉 加代

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この科目は高等学校福祉科の指導法にかかる科目である。福祉科教育の意義について理解し、目標、内容、課題について学習を深める。指導計画、指導方法について研究し指導案を作成する力を身につけ、基礎、基本の定着を図る。又、高等学校福祉教師を目指す者としての心構えを養い後期に開講される「福祉科教育演習」につなげていく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	福祉科教育の意義について
3	福祉科教育の目標について
4	福祉科教育の内容について
5	福祉科教育の評価について
6	福祉科教育の課題について
7	指導計画と指導法について
8	指導計画と指導法について
9	教材研究と学習指導案について
10	教材研究と学習指導案について
11	学習指導案作成の実際
12	学習指導案作成の実際
13	学習指導案作成の実際
14	授業実践見学
15	まとめ（授業振り返り）
16	まとめ（授業の振り返り）

【履修上の注意事項】

- 1・事前に履修しなくてはならない科目は確認し履修しておく。
- 2・課題の提出は時間厳守。
- 3・原則として無断欠席、遅刻は認めない。

【評価方法】

出席状況（30％） 受講態度（20％） 指導案・課題（50％）

【テキスト】

- 1・「高等学校学習指導要領（福祉）」（文部科学省）
- 2・高等学校福祉科テキスト

【参考文献】

適宜紹介

福祉科教育法演習

担当教員 比嘉 加代

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この科目のねらいは高校福祉教育を理解し、教師を目指していることを自覚させる。前期に開講された福祉科教育法で学んだことを基に指導案を作成して模擬授業を実施し授業実践に対応できる能力と態度を養う。その際、他の福祉科目との関連も深める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	高等学校福祉教育の現状と課題
3	指導案の意義
4	各科目の目標・内容
5	各科目の目標・内容
6	評価の観点
7	授業実践見学
8	模擬授業の実践
9	模擬授業の実践
10	模擬授業の実践
11	模擬授業の実践
12	模擬授業の実践
13	模擬授業の実践
14	模擬授業の実践
15	まとめ（授業の振り返り・課題）
16	

【履修上の注意事項】

1. 前期の福祉科教育法を受講した者でなければならない。
2. 課題の提出期限は時間厳守。
3. 原則として理由のない遅刻・欠席は認めない。

【評価方法】

出席状況（30%）受講態度（20%）模擬授業・指導案作成（50%）総合的に判断する。

【テキスト】

「高等学校学習指導要領（福祉）」（文科省）「社会福祉基礎」「基礎介護」（ともに実教出版）

【参考文献】

適宜紹介